

山梨県韋崎市発掘調査報告書

山梨県韋崎市

Shimoyokoya SITE No.5 point

# 下横屋遺跡第5地点

藤井町北下条字下横屋1509番地外地点

宅地分譲地内道路敷設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2005

韋崎市教育委員会  
財団法人山梨文化財研究所

山梨県韮崎市

Shimoyokoya SITE No.5 point

# 下横屋遺跡第5地点

藤井町北下条字下横屋1509番地外地点

宅地分譲地内道路敷設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2005

韮崎市教育委員会  
財団法人山梨文化財研究所

## 序 文

垂崎市は武田発祥の地であり、武田氏ゆかりの史跡が数多く残っております。武田氏最後の城である新府城跡や関連のある武田八幡宮、願成寺、白山城跡や能見城跡があり、また治水遺構として勒使川旧堤防跡（将棋頭）など挙げ始めれば枚挙に暇がないほどであります。

このような中世以降の史跡もさることながら、中世以外の遺跡も数多く有しております。下横屋遺跡の所在する藤井平は「藤井平五千石」と呼ばれるように一大穀倉地帯であった歴史を有しています。現北東小学校にあった宮ノ前遺跡では東日本最古に位置づけられる水田跡が確認されており、弥生時代から水田が経営されていたことがわかっております。

さらに調査で、弥生時代のお墓が確認され、コバルト色のガラス玉がまとまって発見されております。藤井平に住んだ先人達は、死者に対して何を折ったのか、そんなことを考えずにはおられません。また、周辺では過去に数回にわたり発掘調査が行なわれており、藤井平の先人達の足跡を面的にたどる資料が蓄積されつつあります。発掘調査地点は建設によって二度と見ることはできませんが、調査記録の集大成である本書により下横屋遺跡をはじめとする藤井平の先人たちの営みの一部が浮かび上るとともに、さらなる研究がおこなわれ、本遺跡の位置づけがなされることを願わずにはおられません。

おわりに遺跡の調査から本書の刊行まで遅りなく進みましたことは、関係各位をはじめ近隣の方々のご理解とご協力の賜と衷心より感謝申し上げます。

垂崎市教育委員会

教育長 作 地 敏 久

## 例　　言

1. 本書は、山梨県韮崎市藤井町北下条字下横屋1509番地外に所在する、下横屋遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、宅地分譲地造成工事に先立って実施されたもので、有限会社チームトラストの委託を受けた財団法人山梨文化財研究所が発掘調査および整理作業にあたった。
3. 本書の執筆・編集は宮澤公雄が行った。
4. 本報告書作成のための作業分担は、以下の通りである。

遺物洗浄・注記・接合	齊藤ひろみ、田中真紀美、萩原忠
遺物復元	齊藤ひろみ
遺物実測	齊藤ひろみ
遺構写真撮影	宮澤公雄
遺物写真撮影	宮澤公雄
図面修正	岩崎満佐子、田中真紀美、宮澤公雄
遺構・遺物トレース	齊藤ひろみ
図版作成	齊藤ひろみ
表作成	宮澤公雄
5. 発掘調査および整理作業において一部の調査・業務を以下の機関に委託した。

航空写真測量	フジテクノ株式会社
--------	-----------
6. 本書に關わる記録図面・写真・出土遺物等は、韮崎市教育委員会が保管している。
7. 本遺跡の発掘調査および整理作業にあたっては、以下の諸機関・各位から多大なるご指導・ご協力を賜った。ここに記して深く感謝の意を表する次第である。

韮崎市教育委員会、泰公建設、間間俊明、人島正之、佐々木満、中山誠二、山下孝司
----------------------------------------
8. 参考文献は、執筆者順に第4章末にまとめて記載した。

## 凡　例

1. 遺跡全体におけるX・Y座標は、世界測地系平面直角座標第Ⅷ系のX = -30,630.000、Y = -4,660.000（北緯35度43分26秒、東経138度46分55秒）を基点（X = 0、Y = 0）とした座標値である。なお、各遺構平面図中に示す方位は、すべて座標北を示している。

なお、真北方向角は0度1分48秒となる。

2. 遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として以下の通りである。

### 遺構

溝—1/40、1/60

土坑—1/20

ピット—1/20

遺物　土器—1/3、1/6、石製品・土製品—1/2、ガラス小玉—1/1

3. 遺構図版中で使用したスクリーントーンの凡例は以下の通りである。

石    地山土

4. 遺構図版中の遺物分布図のマークは以下の通りである。ただし、マークの向きは北位を基準としたものである。

○弥生土器壺・壺 △弥生土器鉢 ■土師器壺系 ●土師器甕系 □須恵器壺・壺  
■須恵器壺系 △陶磁器壺 ■陶磁器甕・皿系 \*ガラス玉 ×鉄製品

5. 遺物図版中で使用したスクリーントーンの凡例は、以下の通りである。

赤彩土器    ■須恵器    陶磁器

6. 遺構同一図版中の標高は、原則として統一しているが、一部異なるものもあり明記してある。

7. 遺構図版中および土器観察表中の色調名は、農林水産省技術会議事務所監修 1990「新版 標準十色帖」（小山正忠・竹原秀雄）による。

8. 本書で用いた地図は、国土地理院発行の地形図（1:25,000）「韭崎」ならびに韭崎市発行の韭崎市管内図（1:10,000、1:2,500）である。

# 目 次

序 文

例 言

凡 例

第1章 序 説 .....	1
第1節 調査に至る経緯 .....	1
第2節 調査経過 .....	1
第3節 調査の方法 .....	3
第4節 遺跡概要 .....	3
第5節 基本層序 .....	3
第2章 遺跡の立地と環境 .....	5
第1節 遺跡の地理的位置 .....	5
第2節 遺跡の歴史的環境 .....	5
第3章 遺構と遺物 .....	9
第1節 墓 壇 .....	9
第2節 土坑・ピット .....	11
第3節 溝 跡 .....	11
第4章 まとめ .....	16
参考文献 .....	18
おわりに .....	19

## 表目次

第1表 ガラス小玉計測表 .....	9
第2表 ガラス小玉観察表 .....	10
第3表 土坑・ピット一覧表 .....	14
第4表 出土遺物観察表（土器） .....	15
第5表 出土遺物観察表（鉄器） .....	15

## 図版目次

第1図 遺跡全体図 .....	2
第2図 遺跡基本土層 .....	4
第3図 遺跡の位置と周辺の遺跡 .....	6
第4図 下横屋遺跡調査区位置図 .....	7
第5図 1号墓・46号ピット平面図 .....	20
第6図 1号墓・46号ピットエレベーション図 .....	21
第7図 1号墓・46号ピット遺物分布図 .....	22
第8図 土坑・ピット平面図（1） .....	23
第9図 土坑・ピット平面図（2） .....	24
第10図 土坑・ピット平面図（3） .....	25
第11図 土坑・ピット平面図（4） .....	26
第12図 土坑・ピット平面図（5） .....	27
第13図 土坑・ピット平面図（6） .....	28
第14図 土坑・ピット平面図（7） .....	29
第15図 土坑・ピット平面図（8） .....	30
第16図 溝平面図（1） .....	31
第17図 溝セクション図 .....	32
第18図 溝平面図（2） .....	33
第19図 溝平面図（3） .....	34
第20図 溝平面図（4） .....	35
第21図 出土遺物（1） .....	40
第22図 出土遺物（2） .....	41
第23図 出土遺物（3） .....	42

## 写真図版目次

図版 1	1 航空写真（1）	5 2・3号溝全景
	2 航空写真（2）	6 4・5号溝全景
図版 2	1 1号墓土器棺検出状況	7 6号溝全景
	2 1号墓ガラス玉検出状況	8 7号溝全景
図版 3	1 1号墓土器棺完掘状況	図版 6 1 8号溝全景
	2 1号墓堀り方	2 9号溝全景
図版 4	1 1号土坑全景	3 10号溝全景
	2 2号土坑全景	4 11号溝全景
	3 3・4号土坑全景	5 調査風景（1）
	4 5号土坑全景	6 調査風景（2）
	5 6号土坑全景	7 調査風景（3）
	6 8号土坑全景	8 冠水状況
	7 9号土坑全景	図版 7 1号墓土器棺
	8 12号土坑全景	ガラス小玉（1）
図版 5	1 ピット群全景（1）	ガラス小玉（2）
	2 ピット群全景（2）	図版 8 ガラス小玉実体顕微鏡写真（透過光）
	3 ピット群全景（3）	図版 9 出土遺物
	4 1号溝全景	

# 第1章 序 説

## 第1節 調査に至る経緯

韮崎市森井町は、塩川によって形成された平坦地と河岸段丘上の台地とからなる。段丘上では、果樹栽培が盛んに行われており、平坦地は水田地帯となっているが、平坦地では近年急速な宅地化が進行している。有限会社チームトラストが事業を進めていた宅地分譲地造成工事予定地内は周知の下横屋遺跡内にあたり、韮崎市教育委員会では2003年5月21日から7月12日にかけて試掘調査を実施した。試掘調査の結果、弥生時代ならびに平安時代の遺構・遺物が確認され、遺跡の存在が推定されたことから、発掘調査が必要であると判断した。

2004年8月に韮崎市教育委員会および事業主体である有限会社チームトラストより財団法人山梨文化財研究所に対し、下横屋遺跡の発掘調査の依頼があり三者で協議した結果、協定ならびに委託契約を結んで発掘調査および整理作業にあたることとした。

宅地分譲地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書を有限会社チームトラスト、韮崎市教育委員会、財団法人山梨文化財研究所の間において締結し、委託者有限会社チームトラスト、受託者財団法人山梨文化財研究所理事長の間において、委託契約を締結し事業にあたった。

### 調査体制

調査主体 財団法人山梨文化財研究所

調査担当者 宮澤公雄 財団法人山梨文化財研究所

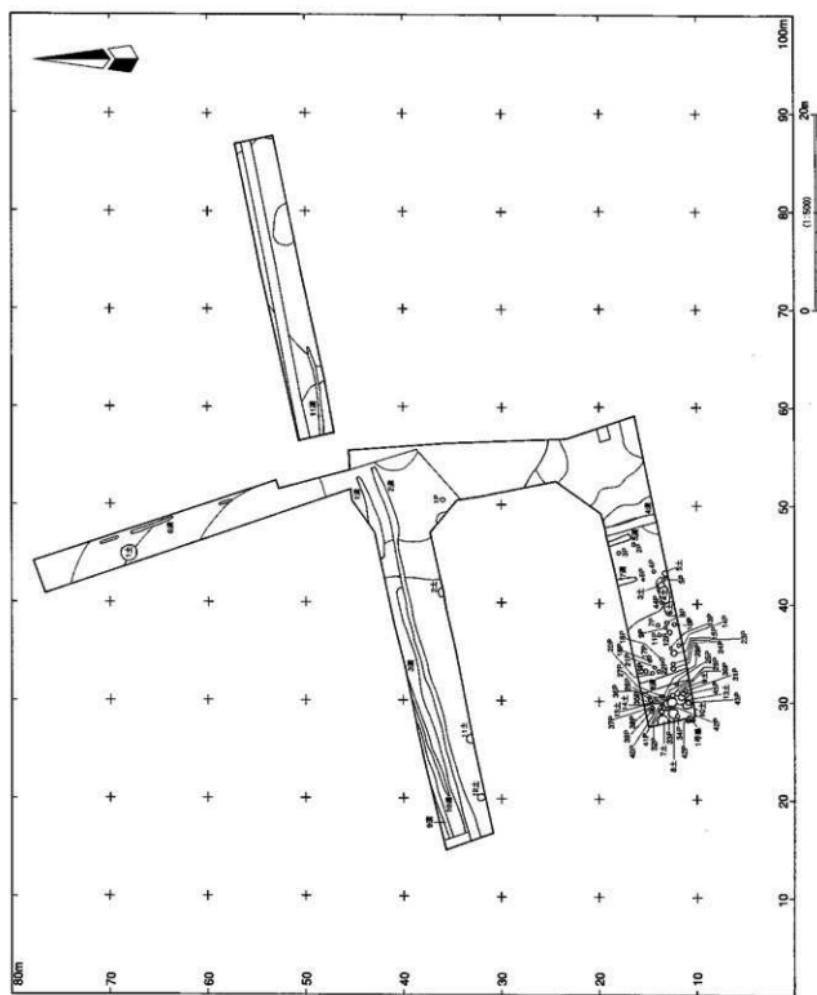
発掘調査参加者 小田切昭子、與水和彦、五味ゆき子、萩原忠、千野こま江、藤原和美、

守屋敏子、矢崎きん江、矢崎徳市

整理作業参加者 岩崎満佐子、小沢恵津子、齊藤ひろみ、田中真紀美、林紀子

## 第2節 調査経過

- 8月30日 調査事務所設置・機材搬入
- 8月31日 第1期調査区表土剥ぎ開始
- 9月1日 発掘調査開始、遺構確認
- 9月3日 杭打ち
- 9月8日 遺構確認終了
- 9月9日 溝跡調査開始
- 9月14日 土坑調査開始
- 9月16日 第1期調査区航空写真測量
- 9月27日 第2期調査区表土剥ぎ開始
- 9月28日 遺構確認
- 10月25日 標準土層作成
- 10月27日 第2期調査区航空写真測量、1号墓確認
- 10月29日 1号墓調査、機材撤収、現地作業終了



第1図 遺跡全体図

### 第3節 調査の方法

調査区設定の後、重機により表土を除去し、引き続き人力による遺構確認作業を行った。確認された遺構は、構築年代の新しいものから順次調査を行ったが、一部新旧関係が不明な重複した遺構については同時に調査を行い、土層観察により新旧関係の決定を行った。

出土した遺物は遺構内のものについてはすべて、遺構外出土のものについても原位置が明らかなものは光波測量機器を用いて個別に取り上げを行い、遺物微細図はデジタルカメラによる測量を実施した。遺構図の図化は、光波測量器による測量とデジタルカメラによる測量を併用した。

測量に用いた機器およびシステムは以下の通りである。

光波測量機器	TOPCON GPS III
コンピュータ	SHARP コベルニクス
取り上げ・図化システム	株式会社コンピュータ・システム製 SITE IV
デジタルカメラ図化システム	株式会社コンピュータ・システム製 SITE 3D

発掘調査は、開発予定地内の外周擁壁工事と並行して行われ、工事用道路を確保するため一度に調査を行うことが出来ず、2期に分けて表土剥ぎ、遺構確認ならびに発掘調査を実施した。

重機による表土剥ぎ終了後、調査区全体を被うように国土地標にあわせて南北方向をX軸、東西方向をY軸とするメッシュをかけ、南西隅を基点とした。世界測地系座標 X = -30,630.000m、Y = -4,660.000mを原点(X = 0、Y = 0)とし、調査区内に5mメッシュの杭打ちを行った。

また、発掘調査では、光波測量器による遺物の取り上げを行ったため、東西、南北とも1mのグリッドとして両軸とも整数を用いて表現した。

### 第4節 遺跡概要

本遺跡は、塩川右岸の氾濫原の通称「藤井平」と呼ばれる平坦地に位置し、現在は水田が営まれている地域にある。

下横屋遺跡は遺跡範囲が広く、東西250m前後、南北500mほどとされており、過去において4回にわたり、開発に伴う発掘調査が実施されている。

今回の発掘調査の結果、弥生時代後期の土器棺墓1基、弥生時代から平安時代にわたるとおもわれる溝11条、土坑15基、ピット46基などが発見された。

調査区の南西隅から検出された弥生時代後期の土器棺墓は、墓壙に頭部を打ち欠かれた壺形土器が据えられており、中からガラス小玉46点が出土した。

11条の溝はほとんどが開削時期不明なものであるが、主軸を東西ないし南北に採るよう開削されており、計画的な配置がなされていることから古代ないし中世に属する溝の一部と考えられる。

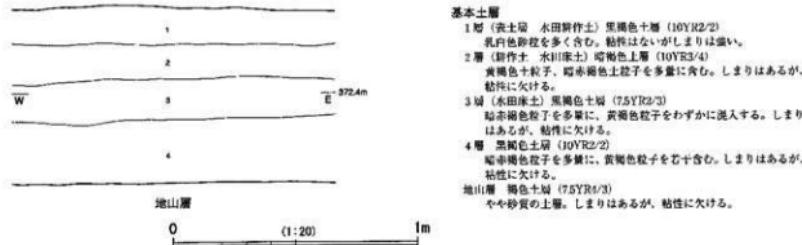
発見された土坑・ピットは、時期や性格を特定できるものはほとんどなく、柱穴列となるような配置もみられなかった。

### 第5節 基本層序

本遺跡は、河川の氾濫原に位置しており、地形は南に緩やかに傾斜する。現在は水田となっており、南へ下降する堆積造成地形となっている。そのため、調査地点によって表土から遺構確認面までの深さは異なり、30cmから60cmほどであった。

第1・2層が表土ならびに水田の耕作土となる。第3層は水田の床土となり、遺物は・4層は暗赤褐色粒子ならびに黄褐色粒子を含んだ黒褐色土層である。希薄ではあるが遺物を包含する。ただし、調査地点によつては、第4層がみられないところもある。

本調査区においては、第4層と第5層（地山土）の境界付近に遺物の包含がみられたが、それほど濃密なものではなかった。遺構確認面は、やや砂質の褐色土（75YR4/3）となる。



第2図 遺跡基本土層

## 第2章 遺跡の立地と環境

### 第1節 遺跡の地理的位置

本遺跡の所在する垂崎市は、山梨県の北西部、甲府盆地の北西部に位置している。東西にやや長い市域は、河川の開拓などによって複雑な地形を呈しており、大きく3地域にわけることができる。

市域の東側は、茅ヶ岳の南西麓地域にあたり、緩やかな南北斜面を利用して、果樹栽培を中心とした農業が行われている。市域の西側は、南アルプス連峰、巨摩山地が連なり、市域を貫流する釜無川右岸の河岸段丘上に展開する地域である。

市域の中央部は、釜無川と塙川が南北に貫流している。八ヶ岳山麓から延びる菲崎岩屑流で構成された台地が、この両河川によって浸食された菲崎台地と塙川の氾濫原にあたる低地とからなる。菲崎台地は、侵食によるほぼ垂直に切り立った断崖が形成されており、その長さから七里岩と呼ばれている。低地の氾濫原は、完新世段丘の形成によって藤井平と呼ばれる肥沃な穀倉地帯が形成されており、「藤井五千石」などともいわれている。

『甲斐国志』古跡部第十には、

穴山ヨリ南小出川・駒井・坂井・中条・下条・並崎等ノ数村ヲ里人ハ藤井庄五千石ト云其山齊ユニ名アリ  
慶長古高六千百余石後又千五六百石ヲ増ス西ハ片山新府ノ台、東ハ塙川ヲ帶ビ北ハ桐樹川ヲ界ヒトシ藤井  
渠ヲ穿ツ水利自在ヲ得テ夏時水田トシ冬陸田ナス且諸村ノ米ニ居リ余水聚來ルヲ以テ出地殊ニ肥続ナリ  
と記されており、近世においても著名な穀倉地帯であったことがわかる。

本遺跡は、その藤井平のほぼ中央、標高372m付近に立地している。

遺跡周辺では、現在も大規模な水田経営が行われている。

### 第2節 遺跡の歴史的環境

肥沃な穀倉地帯である藤井平には、縄文時代から古代にかけて多くの遺跡が分布しており、とりわけ弥生時代後期から平安時代にかけての遺跡が濃密に分布している。

また、本地域は、圃場整備事業、公共施設建設、民間開発などに伴い、多くの発掘調査が実施してきた。その結果、本地域における遺跡のあり方が解明されつつある。

弥生時代の遺跡としては、本遺跡をはじめとして、宮ノ前遺跡（第3図6）、上横屋遺跡（同21）、後田堂ノ前遺跡（同16）、後田第2遺跡（同17）などが知られている。宮ノ前遺跡の微高地縁辺部の埋没旧河道からは、弥生時代前期中葉から後葉に並行する水田跡が発見されており、東日本でも最古の水田跡とされている。本遺跡の北側に隣接する上横屋遺跡からは、後期の住居跡15軒が発見されている。

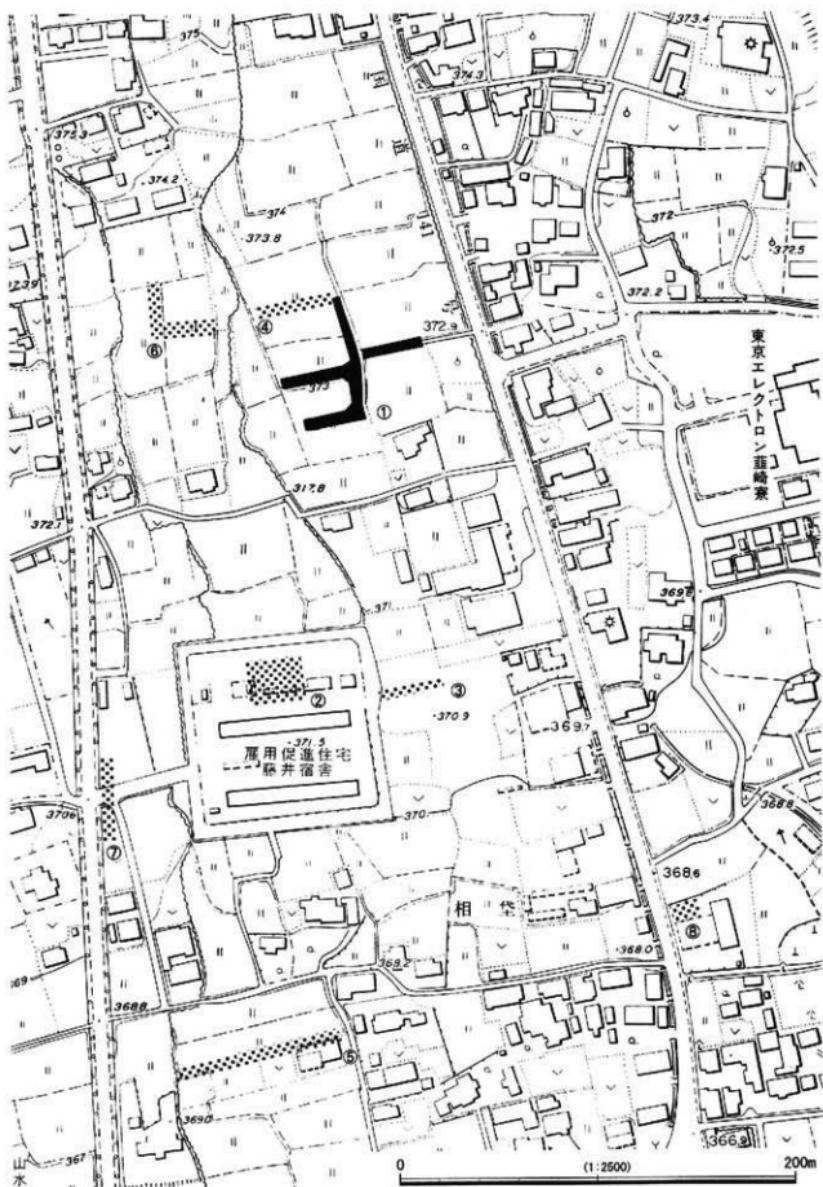
藤井平における古墳時代前期の遺跡は希少となるが、七里岩台地上には坂井南遺跡があり、方形周溝墓群も隣接して営まれている。後期の遺跡としては上横屋遺跡、坂井堂ノ前遺跡（同12）、後田堂ノ前遺跡、後田第2遺跡などが知られ、上横屋遺跡周辺にまとまって分布している。上横屋遺跡からは、竪穴住居15軒が発見されており、そのうちの1軒からは金環が2点出土している。当該期の遺跡が濃密に分布する東端には、後期古墳である火雨塚古墳が所在しており、奥津城であったことが考えられる。

奈良・平安時代になると、宮ノ前遺跡、堂の前遺跡（同11）、後田堂ノ前遺跡、坂井堂ノ前遺跡、後田第2遺跡、三宮地遺跡（同14）、中田小学校遺跡など、平坦面全域に集落遺跡が広がりをみせるようになる。そのうち宮ノ前遺跡では、竪穴住居400軒以上、掘立柱建物50棟以上が発見されており、正倉と思われる大型倉庫も検出されている。出土遺物にも円面鏡や三彩陶器などがあり、巨麻郡衙の一部ないし隣接する遺跡だと考えられている。

数々の発掘調査によって、この地域が弥生時代以降、水田経営を生業としながら、連綿と集落を営んでき



第3図 遺跡の位置と周辺の遺跡



第4図 下横屋遺跡調査区位置図

たことが理解され、巨麻郡の中で重要な役割を果たしてきた地域であることが明らかとなっている。

下横屋遺跡は、今回の発掘調査およびその後の調査も含め、これまでに6回の発掘調査を実施している。第1次調査は、集合住宅建設に先立って本調査区より200mほど南側の地点で調査を実施している(第4図②)。弥生時代後期後半から末頃8軒、平安時代2軒の竪穴住居跡が発見された。そのうち10号住居からは、本遺跡発見の1号土器棺墓の壺と類似した壺や抜り入りの石庖丁が出土している。

第2次調査では、第1次調査の東隣を宅地造成に先立って調査が実施され、弥生時代の土坑2基、奈良・平安時代の掘立柱建物跡1棟を確認している(同③)。

第3次調査は、本調査区の北側に当たる地区を宅地造成に伴う道路の建設に先立って調査を行い、平安時代の竪穴住居1軒、弥生時代から古墳時代前半にかけての溝跡などを検出している(同④)。

第4次調査は、遺跡の南側に当たる地区を宅地造成に伴う道路の建設に先立って調査を行い、遺構は確認されなかったが、縄文時代から平安時代の土器が出土している(同⑤)。

#### 遺跡一覧(番号は第3図に対応)

1	下横屋遺跡	25	三光寺壙址
2	宮ノ前第2遺跡	26	山影遺跡
3	宮ノ前第5遺跡	27	瀧坂遺跡
4	駒井代屋敷跡	28	藤井坂上遺跡
5	駒井砂宮神遺跡	29	瀧坂第2遺跡
6	宮ノ前遺跡	30	相悴壙址
7	宮ノ前第3遺跡	31	枇杷塚遺跡
8	宮ノ前第4遺跡	32	駒井砂宮神堤
9	北後田遺跡	33	藏之前堤
10	後田遺跡	34	建石島堤
11	堂ノ前遺跡	35	岩根前堤
12	坂井堂ノ前遺跡	36	藤井下河原堤
13	火雨塚古墳	37	樅の木堤
14	三宮地遺跡	38	日之城跡
15	北下條壙址	39	宮ノ下遺跡
16	後田堂ノ前遺跡	40	汁森遺跡
17	後田第2遺跡	41	神ノ木第2遺跡
18	堂坂上遺跡	42	神ノ木遺跡
19	榎田遺跡	43	穂坂上ノ原遺跡
20	北下條坂田遺跡	44	ゴリノ木遺跡
21	上横屋遺跡	45	小森山ノ神遺跡
22	藏之前壙址	46	山ノ神遺跡
23	宮木遺跡	47	樅現沢遺跡
24	殿田屋敷跡	48	三百水第2遺跡

## 第3章 遺構と遺物

### 第1節 墓 塚

#### 1号墓

##### 遺構の概要（第5～7図）

調査区の南西隅、X = 10、Y = 28グリッドに位置する。墓塚の北西側の一部は、46号ピットによって破壊を受けている。

墓塚は、不整円形で、南北長0.55m、東西長0.53m、深さ29cmを測り、主軸をN - 27° - Wにとる。墓塚内に主軸と平行して頭部より上半を打ち欠いた壺形土器を、底部を南西に向けるように横位の状態で埋納していた。打ち欠かれた上半部は、壺棺の蓋として壺の割れ口に入れ込むように、やはり横位で使用していた。脇部の一部は46号ピット開削時に破壊を受け、46号ピット内からも破片が数点出土している。

壺の中からは、ガラス小玉が出土した。そのうち、18点については棺の覆土中において出土位置を確認しているが、ガラス玉はレベル的にも平面的にも点在状況にあり、装着状況を示すような状況にはなかった。

発掘調査終了後、壺棺の覆土および46号ピットの覆土を水洗選別した結果、さらに28点のガラス小玉が発見され、合計46点となった。ガラス小玉以外、人骨やその他の遺物は確認できなかった。

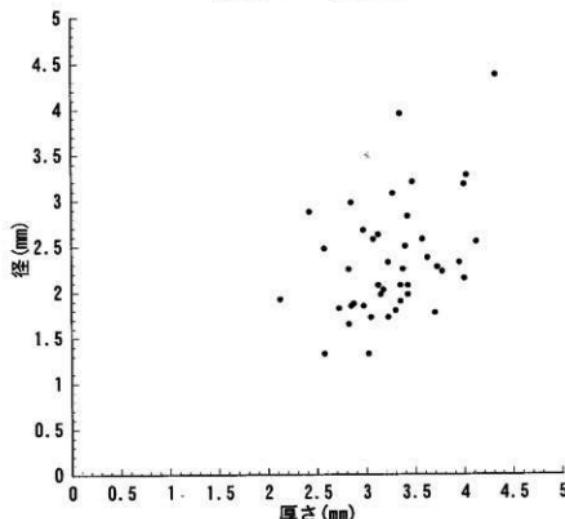
##### 出土遺物（第21図）

上記のように、出土遺物は棺に転用された壺形土器と壺棺内より出土したガラス小玉のみである。

第21図1は壺形土器である。口径19.4cm、高さ54.0cmを測る。胴部最大径を胴部中央にもち、底部へ向かい急激に径を減じ、底部径は8.0cmとなる。胴部外面は、ヘラナデが施され、内面には斜位のハケメを残す。

橢円状工具による施文は、頭部のみに行われている。上から波状文、直線文、二条の波状文、U字文、単斜線文が施されている。直線文は、連続して一気に施文されていることから、土器を回転させ施文したと考えられる。施文開始位置と終点が施文幅分食い違っている。

第1表 ガラス小玉計測表



また、波状文、直線文の施文は浅いため、器壁が窪んだ部分には櫛削状工具が達しておらず、施文されていない箇所も多くみられる。

同2~46はガラス小玉である。概して非常に小さいものであり、極小小玉などと呼ばれるものである。径は3.28 mmを平均として、最大で4.325mm、最小で2.125mmほどである。厚さは2.34mmを平均として、最大4.375mm、最小1.325mmとなる。重さは0.0336 gを平均として、最大0.0889 g、最小で0.0105 gとなる。法量分布図からみても、大きさに偏りは見られず、散漫な分布傾向を示す。

色調は、ライトグリニッシュブルーがほとんどを占め、1点のみディープイエローグリーンがみられる。各ガラス小玉の計測値については、第1・2表を参照されたい。

ガラス小玉は不透明なため、顕微鏡下の観察においても、気泡の状況などガラス内の観察は困難であった。透過型の実体顕微鏡下の観察では、すべてが明瞭ではないが一部に孔と平行する列点状の気泡ならびにやや延びた気泡を確認することが出来ることから、引き伸ばし技法を用いて作成されたものと考えてよい（小瀬1987）。

また、表面の風化はほとんどみられない。

第2表 ガラス小玉観察表

( )は現存値を表す

図版番号	径	厚さ	孔径	重量	色調	備考
第21図2	4.025	3.275	1.025	0.0753	ライトグリニッシュブルー	
第21図3	4.325	4.375	1.575	0.0889	ライトグリニッシュブルー	
第21図4	4.125	2.55	1.275	0.0475	ライトグリニッシュブルー	気泡少
第21図5	4.00	3.175	1.075	0.0732	ライトグリニッシュブルー	列点状気泡
第21図6	4.00	2.15	1.475	0.0391	ライトグリニッシュブルー	気泡大
第21図7	3.95	2.325	1.975	0.0357	ライトグリニッシュブルー	
第21図8	3.575	2.575	1.475	0.0374	ライトグリニッシュブルー	
第21図9	3.15	1.975	0.975	0.028	ライトグリニッシュブルー	
第21図10	3.425	2.075	1.25	0.0326	ライトグリニッシュブルー	
第21図11	3.225	1.725	1.15	0.0243	ライトグリニッシュブルー	気泡大
第21図12	3.775	2.225	1.725	0.0374	ライトグリニッシュブルー	気泡少
第21図13	3.625	2.375	1.125	0.0403	ライトグリニッシュブルー	気泡大
第21図14	3.70	1.775	1.275	0.0282	ライトグリニッシュブルー	気泡大、列点状気泡
第21図15	2.125	1.925	1.425	0.0253	ライトグリニッシュブルー	
第21図16	3.475	3.20	1.50	0.0485	ライトグリニッシュブルー	延びた気泡、列点状気泡
第21図17	3.40	2.50	1.275	0.0321	ライトグリニッシュブルー	
第21図18	3.425	1.975	1.375	0.0297	ライトグリニッシュブルー	気泡大
第21図19	3.35	2.075	1.325	0.0285	ライトグリニッシュブルー	気泡大
第21図20	3.425	2.825	1.225	0.0409	ライトグリニッシュブルー	気泡大
第21図21	3.35	1.90	1.075	0.0269	ライトグリニッシュブルー	気泡多い
第21図22	3.275	3.075	1.45	0.0402	ライトグリニッシュブルー	列点状気泡
第21図23	3.30	1.80	1.125	0.026	ライトグリニッシュブルー	気泡少
第21図24	3.375	2.25	1.075	0.0323	ライトグリニッシュブルー	気泡大
第21図25	3.35	3.95	1.325	0.0494	ライトグリニッシュブルー	気泡大
第21図26	3.05	1.725	1.325	0.0207	ライトグリニッシュブルー	
第21図27	2.825	2.25	1.00	0.024	ライトグリニッシュブルー	
第21図28	2.85	1.85	0.975	0.0209	ライトグリニッシュブルー	気泡大
第21図29	3.175	2.025	1.45	0.022	ライトグリニッシュブルー	
第21図30	3.075	2.575	1.225	0.0298	ライトグリニッシュブルー	気泡大
第21図31	3.025	1.325	1.275	0.0169	ライトグリニッシュブルー	列点状気泡
第21図32	3.125	2.075	0.95	0.0248	ライトグリニッシュブルー	列点状気泡
第21図33	2.975	1.85	1.00	0.0226	ライトグリニッシュブルー	気泡大
第21図34	3.225	2.325	1.05	0.03	ライトグリニッシュブルー	列点状気泡
第21図35	3.125	2.625	1.075	0.029	ライトグリニッシュブルー	気泡大、列点状気泡
第21図36	2.575	2.475	1.075	0.023	ライトグリニッシュブルー	気泡大
第21図37	2.85	2.975	0.725	0.0257	ライトグリニッシュブルー	延びた気泡
第21図38	2.725	1.825	1.375	0.017	ライトグリニッシュブルー	
第21図39	2.675	1.325	1.075	0.0105	ライトグリニッシュブルー	気泡大、列点状気泡
第21図40	2.875	1.875	1.075	0.0173	ライトグリニッシュブルー	
第21図41	2.975	2.675	1.325	0.0271	ライトグリニッシュブルー	面を形成、気泡の延び
第21図42	2.825	1.65	1.075	0.0166	ライトグリニッシュブルー	
第21図43	2.425	2.875	0.725	0.059	ライトグリニッシュブルー	列点状気泡
第21図44	3.725	2.275	1.725	0.0323	ライトグリニッシュブルー	一部欠落
第21図45	-	2.375	-	(0.0113)	ディープイエローグリーン	2/3ほど欠損、崩壊状のしわ
第21図46	-	2.00	-	(0.0318)	ライトグリニッシュブルー	小破片に破断
-	--	--	--	(0.0047)	ライトグリニッシュブルー	小破片のため実測不可

## 第2節 土坑・ピット

本遺跡からは、13基の土坑と46基のピットが発見された。土坑とピットの区分は、径30cmほどを境界として大きいものを土坑、小さいものをピットとした。ただし、厳密に区分したものではない。個々の遺構のデータについては、第3表にまとめたのでそちらを参照されたい。

### 土坑

#### 遺構の概要（第2表・第8～15図）

土坑は、調査区の東側では検出されず、南隅の8号溝西側、4号溝と8号溝の間にほとんどがまとまって確認されている。土坑からの出土物も多くはなく、時代を特定できるような遺物の出土状況を示すものはない。

#### 出土遺物（第22図）

第22図1は6号土坑出土の弥生土器鉢である。第22図2は9号土坑出土、瀬美産の甕口縁部資料である。内面口縁端部には凹線が巡らされている。同3は同じく14号土坑出土の瀬美産の甕胴部資料。9号土坑ないし2号溝出土資料と同一個体かどうかは明らかではない。

### ピット

#### 遺構の概要（第2表・第8～15図）

ピットも土坑と同様な分布傾向にあり、調査区南側の8号溝を挟んだ両側にほとんどが集中している。出土遺物も、土器の小破片がわずかに出土するものがほとんどを占め、遺構の時代を特定するには至らない。また、掘立柱建物跡の柱穴列を示すような規則的な配置例もみられない。

#### 出土遺物（第22図）

第22図4は、11号ピット出土の弥生土器壺底部資料。同5は、46号ピット出土の青磁皿の小破片である。

## 第3節 溝 跡

### 1号溝

#### 遺構の概要（第16図）

調査区のはば中央よりやや東側、X=43、Y=48グリッド付近に位置する。主軸をN-73°-Eにとり、長さ8.65m、幅0.43～0.93m、深さ10～15cmほどを測る。断面は、浅い皿状を呈する。

#### 遺物出土状況（第16図）

弥生土器壺の小破片が、10数点散在的に出土しているが、溝の開削時期を断定できるような資料は出土していない。

#### 出土遺物（第22図）

第22図6は、弥生土器壺の底部資料。

### 2号溝

#### 遺構の概要（第16図）

調査区のはば中央、X=38、Y=25グリッド付近に位置する。主軸をN-74°-Eにとり、現存長39.3m、幅0.40～0.85m、深さ5～30cmほどを測り、西側ほど深さを増す。東側は擾乱を受けており、削平されている。また、西側は調査区外へ延びている。西側の2／3ほどは、北側に並行する3号溝によって上半を削平されている。溝の断面は、皿状を呈する。

### 遺物出土状況（第16図）

弥生土器の壺ないし壺を中心に40数点出土しているが、ほとんどが小破片である。

### 出土遺物（第22図）

第22図7は弥生土器壺ないし壺の底部資料。同8は、渥美産の壺口縁部資料である。内面口縁端部には凹線が巡らされるなど、9号土坑出土遺物と類似した形態を呈するが、やや口径が小さなものである。

### 3号溝

#### 造構の概要（第16図）

調査区のほぼ中央よりやや西側、X=37、Y=28グリット付近に位置する。主軸をN-74°-Eにとり、現存長25.88m、幅0.96~1.09m、深さ4~13cmほどを測る。南側には2号溝が平行しており、2号溝の上半を削平している。溝の西側は調査区外へと延びている。溝底部は、広く平坦化している。

#### 遺物出土状況（第16図）

弥生土器の壺ないし壺を中心に20点ほどが出土しているが、ほとんどが小破片であり、図示できるようなものはない。

### 4号溝

#### 造構の概要（第18図）

調査区の南東隅、X=17、Y=47グリット付近に位置する。西側には5号溝が平行して開削されている。主軸をN-18°-Wにとり、現存長5.35m、幅0.4~0.51m、深さ23~39cmほどを測る。溝は南北とも調査区外に延びている。本溝は、調査区の中では深く掘られており、断面はUないしV字型を呈する。

#### 遺物出土状況（第18図）

弥生土器の壺ないし壺を中心に5点ほどが出土しているが、ほとんどが小破片であり、図示できるようなものはない。

### 5号溝

#### 造構の概要（第18図）

調査区の南東隅、X=18、Y=46グリット付近に位置する。東側に平行して4号溝がある。主軸をN-20°-Wにとり、現存長2.49m、幅0.25~0.29m、深さ16~35cmほどを測る。北側は調査区外に延びている。断面は、逆台形を呈し、南側は1.2mほどの長さで一段深く掘られている。

#### 遺物出土状況（第18図）

弥生土器の壺ないし壺が2点出土しているが、いずれも小破片であり、図示できるものはない。

### 6号溝

#### 造構の概要（第19図）

調査区北側、X=18、Y=46グリット付近に位置し、主軸をN-19°-Wにとる。造構確認面からの深さは浅く、2箇所で途切れている。現存長は南側から1.35m、4.26m、2.29m、幅0.085~0.25m、深さ2.5~7cmほどを測る。断面は、U字状を呈する。

#### 遺物出土状況（第19図）

弥生土器の壺ないし壺が2点出土しているが、いずれも小破片であり、図示できるものはない。

### 7号溝

#### 造構の概要（第19図）

調査区の南東隅、X=18、Y=46グリット付近に位置する。東側に平行して4号溝がある。主軸をN-15°-Wにとり、現存長2.04m、幅0.6m、深さ12cmほどを測る。断面は、底面が平坦となる逆台形を呈する。北側は調査区外に延びている。

#### 遺物出土状況（第19図）

弥生土器の壺ないし壺が5点出土しているが、いずれも小破片であり、図示できるようなものはない。

#### 8号溝

##### 遺構の概要（第20図）

調査区の南東隅、X = 18、Y = 46グリット付近に位置する。東側に平行して4号溝がある。主軸をN - 18° - Wにとり、現存長5.12m、幅1 ~ 1.2m、深さ16 ~ 22cmほどを測る。北側は調査区外に延びている。

##### 遺物出土状況（第20図）

弥生土器の壺ないし壺を中心に15点ほど出土しているが、ほとんどが小破片であり、図示できるようなものはない。

#### 9号溝

##### 遺構の概要（第16図）

調査区中央よりやや西側、X = 37、Y = 22グリット付近に位置する。南側に平行して10号溝がある。主軸をN - 72° - Wにとり、現存長12.12m、幅0.5m前後、深さ16 ~ 31cmほどを測り、西へ向かうに従って深く開削されている。断面は、東側ではU字状を呈するが、西側では逆台形となる。溝は東西とも調査区外に延びている。

##### 遺物出土状況（第16図）

弥生土器の壺ないし壺を中心に20数点が出土しているが、ほとんどが小破片であり、図示できるようなものはない。

#### 10号溝

##### 遺構の概要（第16図）

調査区の中央よりやや西側、X = 37、Y = 26グリット付近に位置する。北側には平行して9号溝がある。主軸をN - 70° - Wにとり、現存長12.79m、幅0.3 ~ 0.42m、深さ15cmほどを測る。北東側は調査区外に延びている。

##### 遺物出土状況（第16図）

弥生土器の壺ないし壺を中心に10数点が出土しているが、ほとんどが小破片であり、図示できるようなものはない。

#### 11号溝

##### 遺構の概要（第19図）

調査区の中央よりやや東、X = 18、Y = 46グリット付近に位置する。主軸をN - 81° - Eにとり、現存長9.09m、幅0.17 ~ 0.53m、深さ6 ~ 8cmほどを測る。西側は調査区外に延びているが、延長上にある中央寄りの調査区では、溝の痕跡を確認していない。

遺物は出土していない。

第3表 土坑・ピット一覧表

(単位: m)

遺構名	グリッド	形態	上端 長径×短径	下端 長径×短径	深さ	主軸	出土遺物	備考
1号土坑	68-45	不規	1.88×1.77	1.5×1.25	0.37	N-11°-W		
2号土坑	36-46	不整	0.91×-	0.85×-	0.18	N-85°-E		南北半は調査区外
3号土坑	14-42	不整	0.91×0.71	0.78×0.59	0.09	N-66°-E		4号土坑に切られる
4号土坑	14-41	楕丸方形	1.64×1.1	1.42×0.63	0.30	N-82°-E	弥生土器1点	3号土坑に切られる
5号土坑	13-43	椭円	-×0.65	-×0.49	0.15	N-10°-W		南北半は調査区外
6号土坑	13-39	楕丸形	-×1.35	-×0.94	0.19	N-1°-W	弥生土器2点	南側の一部は調査区外
7号土坑	13-28	不整	-×0.95	-×0.81	0.18	N-62°-E		
8号土坑	12-28	円	0.98×-	0.84×-	0.21	-		34号ピットに切られる
9号土坑	11-30	不整	0.73×0.67	0.65×0.41	0.21	N-51°-W	縦糞便1点、弥生土器1点	45号ピットに切れる
10号土坑	11-29	不整	0.98×0.77	0.68×0.56	0.13	N-23°-W		43号ピットと重複、新旧関係不明
11号土坑	13-26	不整	0.99×-	0.73×-	0.05	N-78°-E		南側調査区外
12号土坑	32-26	方形	0.78×0.66	0.58×0.43	0.17	N-7°-E		
13号土坑	11-30	不整	-×0.88	-×0.7	0.24	N-3°-E		
14号土坑	12-30	椭円	1.02×0.96	0.74×0.7	0.26	N-26°-W	縦糞便1点、弥生土器1点	
15号土坑	13-30	楕丸方形	-×0.7	-×0.59	0.07	N-14°-W		
1号ピット	36-56	円	0.39×0.37	0.23×0.21	0.18			
2号ピット	16-46	円	0.31×0.3	0.13×0.12	0.33			
3号ピット	18-45	椭円	0.35×0.35	0.25×0.22	0.53			
4号ピット	14-43	椭円	0.31×0.3	0.22×0.2	0.13			
5号ピット	13-42	椭円	0.31×0.28	0.21×0.18	0.2			
6号ピット	15-42	円	0.22×0.2	0.18×0.15	0.17			
7号ピット	14-37	椭円	0.35×0.35	0.25×0.21	0.33			
8号ピット	13-38	椭円	0.35×0.34	0.24×0.2	0.56			
9号ピット	13-37	円	0.27×0.25	0.12×0.11	0.52			
10号ピット	12-37	円	0.34×0.34	0.23×0.21	0.53			
11号ピット	13-36	円	0.31×0.28	0.19×0.17	0.2			
12号ピット	12-37	椭円	0.51×0.42	0.37×0.29	0.35			
13号ピット	12-35	円	0.3×0.26	0.15×0.14	0.25			
14号ピット	11-35	円	0.33×0.31	0.2×0.18	0.35			
15号ピット	12-35	椭円	0.63×0.56	0.19×0.19	0.52			
16号ピット	13-34	円	0.29×0.29	0.2×0.16	0.36			
17号ピット	14-34	椭円	0.33×0.31	0.21×0.18	0.2			
18号ピット	14-34	椭円	0.27×0.27	0.21×0.1	0.31			
19号ピット	15-34	円	0.41×0.39	0.32×0.3	0.33			
20号ピット	14-35	円	0.29×0.29	0.14×0.13	0.28			
21号ピット	14-35	椭円	0.35×0.31	0.26×0.22	0.22			
22号ピット	14-33	円	0.33×0.31	0.22×0.21	0.25			
23号ピット	12-33	不整	0.35×0.31	0.21×0.16	0.34			
24号ピット	12-33	不整	0.44×0.41	0.25×0.11	0.36			
25号ピット	12-31	円	0.34×0.31	0.21×0.18	0.16			
26号ピット	14-30	円	0.26×0.26	0.13×0.11	0.34			
27号ピット	13-30	椭円	0.37×0.33	0.17×0.13	0.41			28号ピットを切る
28号ピット	13-30	円	-×0.3	0.14×0.13	0.32			27号ピットに切られる
29号ピット	13-30	円	0.29×0.27	0.14×0.12	0.56			
30号ピット	12-30	円	0.43×0.4	0.23×0.2	0.33			
31号ピット	11-31	円	0.39×0.37	0.29×0.21	0.53			
32号ピット	13-29	円	0.44×0.41	0.28×0.24	0.28			
33号ピット	12-28	不整	0.23×0.22	0.09×0.06	0.34			
34号ピット	12-28	円	0.41×0.39	0.29×0.27	0.46			
35号ピット	14-30	円	-×0.3	-×0.1	0.21			36号ピットに切られる
36号ピット	14-30	椭円	0.45×0.29	0.2×0.19	0.38			35号ピット切る
37号ピット	14-29	円	0.33×0.3	0.25×0.21	0.25			
38号ピット	14-29	円	0.28×0.25	0.16×0.11	0.34			39号ピットを切る
39号ピット	14-29	椭円	-×0.27	-×0.15	0.27			38号ピットに切られる
40号ピット	13-29	不整	0.31×0.28	0.07×0.06	0.17			
41号ピット	13-29	円	0.41×0.37	0.2×0.19	0.32			
42号ピット	13-29	円	0.3×0.29	0.09×0.05	0.28			
43号ピット	11-30	椭円	0.48×0.45	0.33×0.28	0.47	弥生土器3点		10号土坑と重複、新旧関係不明
44号ピット	13-40	椭円	0.31×0.25	0.19×0.11	0.25	弥生土器1点		
45号ピット	11-36	円	0.44×0.41	0.2×0.19	0.36			9号土坑に切られる
46号ピット	11-28	円	0.34×0.34	0.29×0.24	0.34	青磁1点		1号墓を切る

第4表 出土遺物觀察表（土器）

〔社説〕〔社説〕は電子実験機、〔 〕は振子管である。

表 1-1 不同土壤条件下玉米的生长发育情况

第5表 出土遺物觀察表（鐵器）

参考					
川上賞橋	回版番号	種類	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)
グリッド	第23-0	棒状製品	(3.7)	0.3	0.3 (0.7)
グリッド	第23-1	棒状製品	(2.6)	0.45	0.6 (0.47)
グリッド	第23-2	棒状製品	(6.9)	1.3	0.4 (11.78)
グリッド	第23-13	網状	3.5	2.9	1.1 24.95

## 第4章 まとめ

### 1. 土器棺墓について

今回、下横屋遺跡第5地点の発掘調査によって、1基ではあるが弥生時代後期に属する土器棺墓が発見された。

山梨県内の弥生時代の墓制には、土坑墓、土器棺墓、方形周溝墓などが知られている。

土坑墓は前期から中期中頃にかけて一般的にみられるものであるが、後期の発見例もある。北杜市健康村遺跡、北杜市守所遺跡、中道町菖蒲池遺跡の例などがそれにあたるとされるが、人骨が発見されるなどの墓としての機能を直接示す例はない。これらの遺構のうち一部の土坑内から、ある程度まとまった土器片や石器などが出土することから、一般的な土坑とは区別して墓壙として報告されている例が多い。しかし、その他の要素によって、これらの土坑を積極的に墓壙と断定する資料はほとんどないのが現状である。

その中にあって菖蒲池遺跡では、7基ほどの土坑より弥生時代中期のまとまった土器が出土するとともに、土壤のリン分析によって数基の土坑が墓壙である可能性を示唆する結果が出たことが報告されている（山梨県教育委員会1996）。

土器棺墓は、打ち欠いた土器を合わせるなどして棺とするものであるが、土坑を掘り中に土器を埋設するものと、方形周溝墓の周溝内に埋設されるものが知られている。弥生時代を通してみられる墓制ではあるが、類例はそれほど多くはない。

前期では、北杜市下大内遺跡の例が知られている。長径1.2mほどの楕円形の土坑に、大型の広口壺を正位で安置し、別個体の土器片で蓋をしていた。土器内部の底部には、焼土が確認されたが、骨片は検出されていない。土坑底部からは、打製石斧1点、黒曜石片が出土している（明野村教育委員会1997）。

上原市南大浜遺跡では、中期中葉の土器が単独で出土している。頸部を欠損し、逆位で発見され埋設されたような状況ではなかったが、土器棺墓と考えられている（山梨県教育委員会2000）。

甲斐市金の尾遺跡は、弥生時代の集落ならびに方形周溝墓群が発見された大規模な遺跡であるが、土坑墓ならびに土器棺墓と推定される遺構が数基発見されている。そのうちの6号特殊遺構と呼ばれる遺構は、長径80cm、短径60cm、深さ20cmの土坑に、頸部より上を欠損した壺形土器を正位に埋設していた。土器棺内からの遺物は検出されていない（山梨県教育委員会1987a）。

甲府市朝氣遺跡では、第5次調査において長径90cm、短径70cm、深さ25cmほどの楕円形の土坑内に、弥生時代後期末の口縁部を打ち欠いた大型の壺形土器を二個合わせるようにして、横位に安置していた。壺形土器の中からは、緋色をした直径5mmのガラス玉が4点出土している（甲府市1989）。

大規模な方形周溝墓群が発見されたことで著名な中道町上の平遺跡では、81号方形周溝墓の周溝内に合わせて壺棺が発見されている。この壺棺は、周溝内の土層觀察から、周溝の埋没途上において土坑を掘りおいて壺を埋納したもので、追葬の例として確認されたものである。また、この壺棺に使用された土器の口縁部が、同じ周溝内の上層より発見されたことから、埋葬に当たってその場で壺を打ち欠いて納骨されたことが想定されている（山梨県教育委員会1987c）。

第3章第1節で詳述した通り、本遺跡の1号墓の棺内からもガラス小玉46点が出土している。山梨県内では、弥生時代のガラスが発見された例は、上記の朝氣遺跡の例と金の尾遺跡、上の平遺跡、立石遺跡、草ノ前遺跡などわずかな例だけにとどまっている。

金の尾遺跡7号特殊遺構は、さきに触れた6号特殊遺構に隣接して構築されており、長径2m、短径1.1mの長楕円形の浅い七坑であるが、覆土中よりガラス玉7点、環状銅製品が出土している。

ガラス玉は、径7~8mm、厚さ5mm前後である。遺物の詳細な出土状況は不明であるが、被葬者が装着していた装身具であると考えられる。墓壙と考えられるこれらの遺構は、集落域とは分布を異にし、方（円）形周溝墓群に囲まれた地点に点在し、一體となって墓域を形成している。

上の平遺跡103号方形周溝墓の溝中から、濃紺色の長さ5mm、径4.6mmのガラス小玉が1点出土しているが、主体部に副葬された遺物であるのかは明らかではない（中山1987）。

上の平遺跡に隣接する立石遺跡では、弥生時代後期の竪穴住居から、銅鏡とともにガラス小玉が1点出土している（山梨県教育委員会1996）。

本遺跡と同じく藤井平上に占地し、3kmほど北側に位置する戸ノ前遺跡では、弥生時代後期の竪穴住居4軒、平安時代の竪穴住居16軒が検出されている。弥生時代後期に属する20号住居跡からは、磨製石庖丁などとともに1点はあるがガラス小玉が出土している。ガラス小玉はコバルトブルーを呈し、径8mmほどを測る（韮崎市教育委員会1987）。

居住域と墓域を異にする金の尾遺跡の7号特殊造構や墓塚と思われる6号特殊造構などは、方形周溝墓群に囲まれた地点に点在していることから、墓域として認識された地点に造られ、両者が並存した可能性が高い。特殊造構は土坑墓であり、方形周溝墓とは規模、投下労働力に大きな格差があることは明らかである。この相違が、被葬者のどれほどの重層的な格差を示し、社会状況の表れであるかどうか明確にすることはできないが、両者の間には大きな格差を認めざるを得ない。

本遺跡の土器棺墓や金の尾遺跡7号特殊造構のような極めて小規模な墓においても、ガラス小玉を副葬していたことから、弥生時代後期においては、ガラス製装飾品の流通がかなり進んでいたのではないかと考えざるを得ない。集落内や方形周溝墓において、ガラス小玉の発見例が希少なのは、板橋区四葉地区遺跡の例（富樫・徳澤1995）で明らかのように、極小遺物であるために水洗選別法などを用いない限り発見が困難であることに大きく起因しているものと考えられる。また、方形周溝墓の主体部が発見されることが極めて希であり、主体部内の実態を明らかにすることはできないということも一つの要因であろう。

## 2. 集落と墓域

下横屋遺跡は、本調査も含めこれまでに6次にわたる発掘調査を実施している。各調査地点の内容については、第2章第2節でも触れているが、第1次調査では弥生時代の竪穴住居8軒が発見されているものの、他の調査地点では住居跡は発見されていない。第1次調査地点の西側に隣接する北下条遺跡でも、弥生時代後期の竪穴住居が発見されている。本遺跡北側の隣接地で実施された3次調査では、平安時代の竪穴住居が確認されたものの、弥生時代の住居跡は発見されていない。

調査区の北東に位置する家電量販店舗建設に伴う試掘調査では、弥生時代の遺物がわずかに発見されているが、住居跡の痕跡は確認されなかったという。

以上のようなこれまでの調査成果からは、本調査区周辺においては集落が展開していない可能性が指摘できる。

本遺跡に隣接する上横屋遺跡では、本調査地点から北側に400mほどの地点が発掘調査され、古墳時代後期の15軒の竪穴住居とともに、弥生時代後期の竪穴住居6軒が発見されており、ある程度の規模で集落を形成していたようである。さらに北側に隣接する後田堂ノ前遺跡でも、弥生時代後期の竪穴住居跡が6軒、発見されている。

また、上横屋遺跡の西側に隣接する、後田第2遺跡では、古墳時代後期の竪穴住居とともに弥生時代後期の竪穴住居跡が4軒調査されている。

これらのことから、本遺跡周辺に展開している弥生時代の集落は、本調査区の南側に位置する第1次調査地点ならびに、本調査区の北側に占地する上横屋遺跡から後田第2遺跡を中心とした本遺跡の北側に広がりをみせているものと推定される。本調査で発見された後期の土器棺墓は、集落からやや離れた位置に占地していることとなり、集落と墓域がやや立地を異にして展開していたことも想定される。

ただし、本調査区の墳墓が、どちらの集落によって形成されていたのか、両集落の広がりが明確ではない現状において明らかにすることはできない。

今回の調査では、土器棺墓が1基発見されただけにとどまっており、調査地点周辺を墓域として認識できる広がりを持っていたのかなど検証できない点もあるが、周辺の遺跡の調査例からも単独で墳墓を営んでいたことは考えられず、周辺に広がりを持っているものと考えたいが、今回のような限られた範囲での発掘調査では明らかにすることは出来なかった。

また、上記に推定したような集落と墓域に立地の違いがあるのかどうかや、墓域として認識できる広がり

を持っていたのか、また、本遺跡発見の土器棺墓の周辺に、金の尾遺跡で確認されているように方形周溝墓群が営まれていたかどうかなど、今後の調査成果に期待するところも大きい。

#### 参考文献

- 明野村教育委員会 1997『下大内遺跡 屋敷添第2遺跡 中原遺跡』 明野村文化財調査報告 11  
木下佳子 1986「ガラスの技術」「弥生文化の研究」6 道具と技術II  
甲府市 1989『甲府市史』資料編第1巻 原始・古代・中世  
小瀬康行 1987「菅切り方によるガラス小玉の成形」「考古学雑誌」第73巻第2号  
小林行雄 1978「弥生・古墳時代のガラス工芸」「MUSEUM」第324号  
新宿区民健康村遺跡調査団 1994『山梨県北巨摩郡長坂町健康村遺跡』  
富樫雅彦・徳澤啓一 1995「弥生時代におけるガラス小玉の研究 一板橋区四葉地区遺跡出土の極小ガラス小玉の検討」「東京考古」13  
中山誠二 1987「弥生時代終末における上の平遺跡の集落構造」「研究紀要」4 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター  
中山誠二 1999「弥生時代の信仰と墓制」「山梨県史」資料編 考古 遺構・遺物編  
韮崎市教育委員会 1987『中本田遺跡 堂ノ前遺跡』  
韮崎市教育委員会 1991『下横屋遺跡』  
韮崎市教育委員会 1996『後出第2遺跡』  
韮崎市教育委員会 1997a『坂井堂ノ前遺跡』  
韮崎市教育委員会 1997b『後田堂ノ前遺跡』  
韮崎市教育委員会 2001『下横屋遺跡第2遺跡』  
韮崎市教育委員会 2003『下横屋遺跡III』  
韮崎市教育委員会 2003『下横屋遺跡IV』  
藤田等 1977「弥生時代のガラス」「考古論集」—慶祝松崎寿和先生六十三歳論文集— 松崎寿和先生退官記念事業会  
藤田等 1994「弥生時代ガラスの研究」  
山梨県 1998『山梨県史』資料編1 原始・古代1  
山梨県 1999『山梨県史』資料編2 原始・古代2  
山梨県教育委員会 1987a「金の尾遺跡 無名墳（きつね塚）」山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第25集  
山梨県教育委員会 1987b「寺所遺跡」山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第27集  
山梨県教育委員会 1987c「上の平遺跡第4次・5次発掘調査報告書」山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第29集  
山梨県教育委員会 1996『立石・宮ノ上遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第110集  
山梨県教育委員会 1996『菖蒲池遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第119集  
山梨県教育委員会 2000『南大浜遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第166集

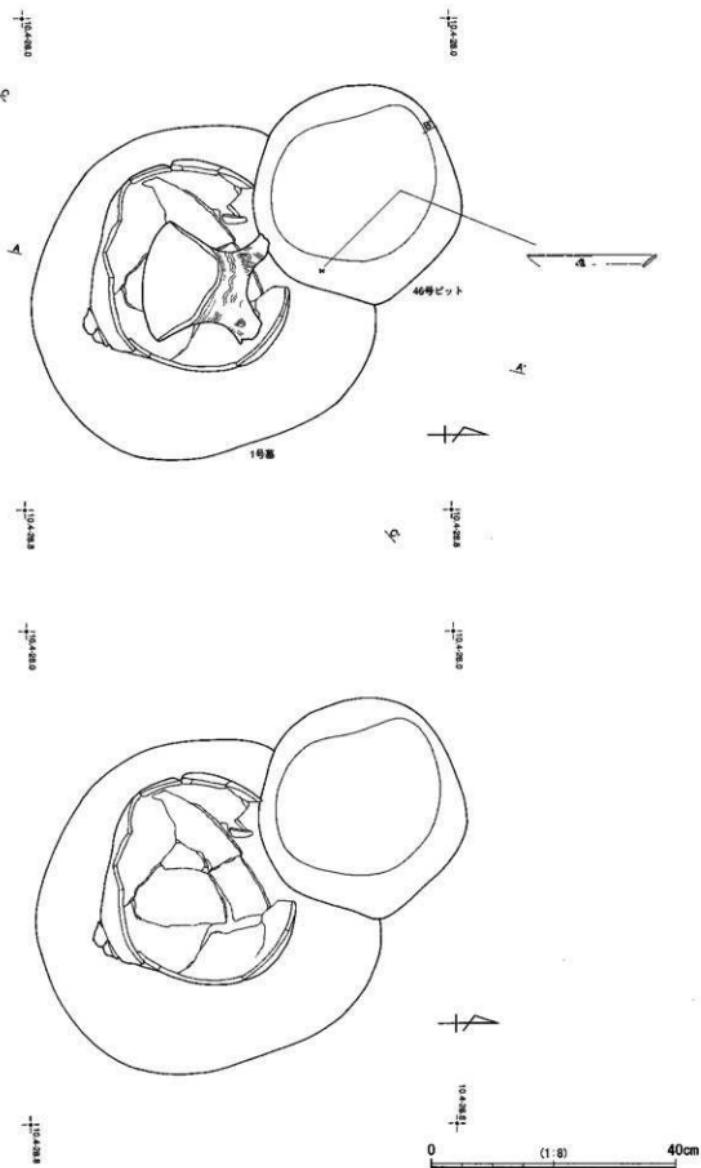
## おわりに

今回の下横屋遺跡の発掘調査は、宅地開発における道路部分のみの調査であり、限られた情報しか得ることができない状況であった。

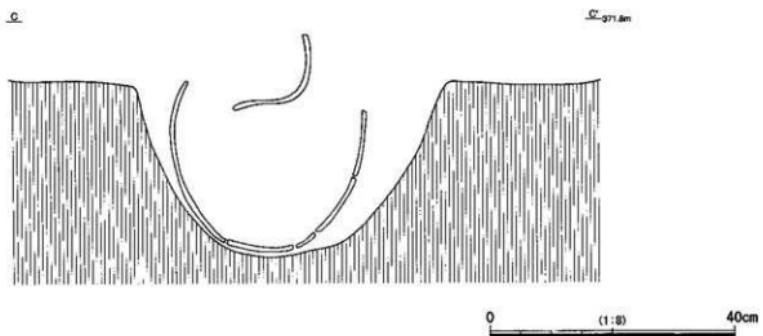
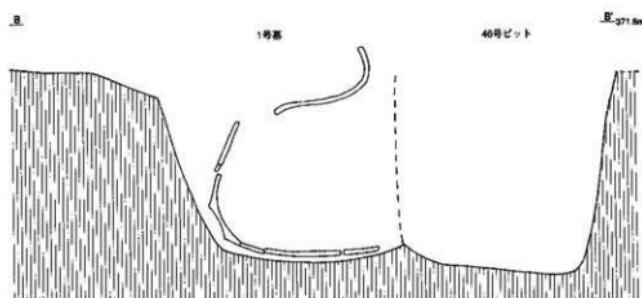
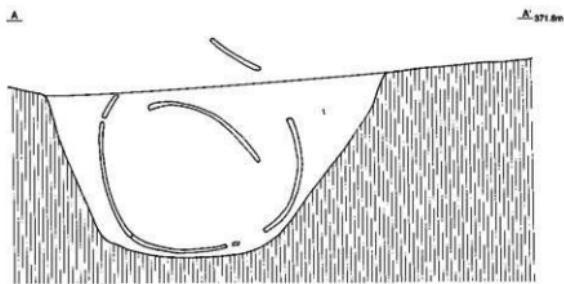
しかし、調査区南西隅から弥生時代後期のガラス小玉を副葬した土器棺墓が1基ではあるが、発見されたことは予想を超えた大きな成果であった。

これまでに山梨県内では、弥生時代の土器棺墓の調査例はわずかに数例を数えるに過ぎず、副葬品をもつた例はさらに希少な例となった。

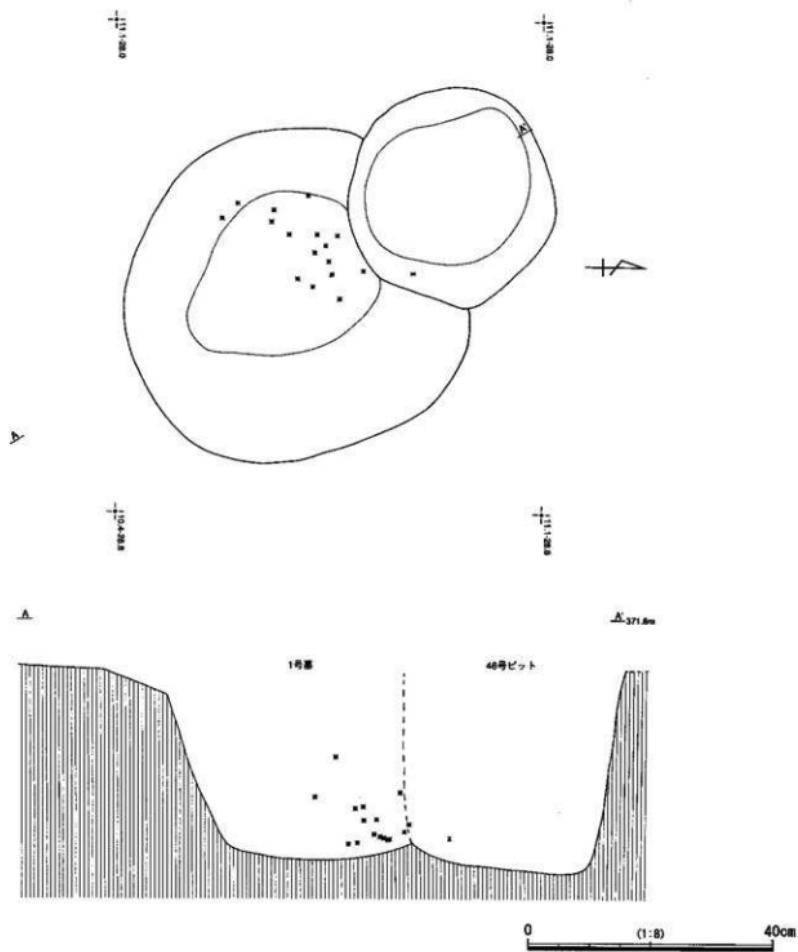
最後になりましたが、発掘調査から報告書刊行にあたりご協力いただきました機関・各位、作業に従事していただいた方々にお礼申し上げます。



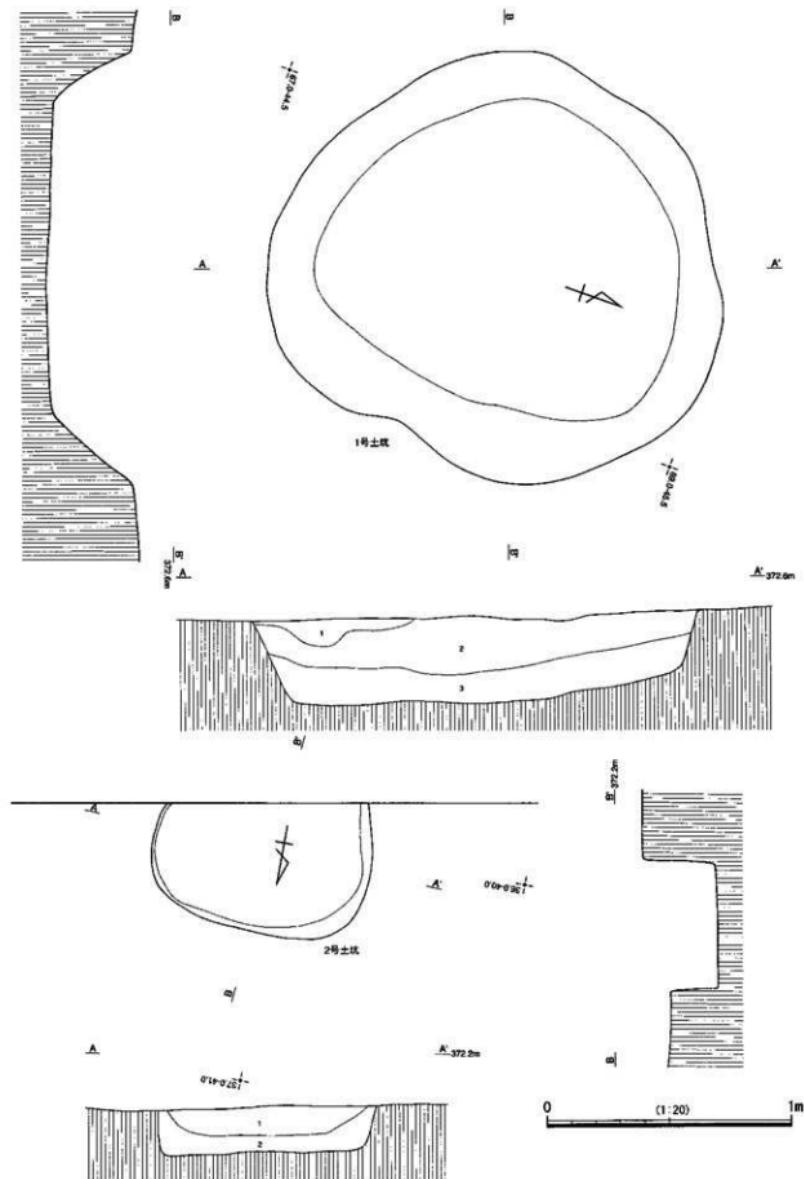
第5図 1号基・46号ピット平面図



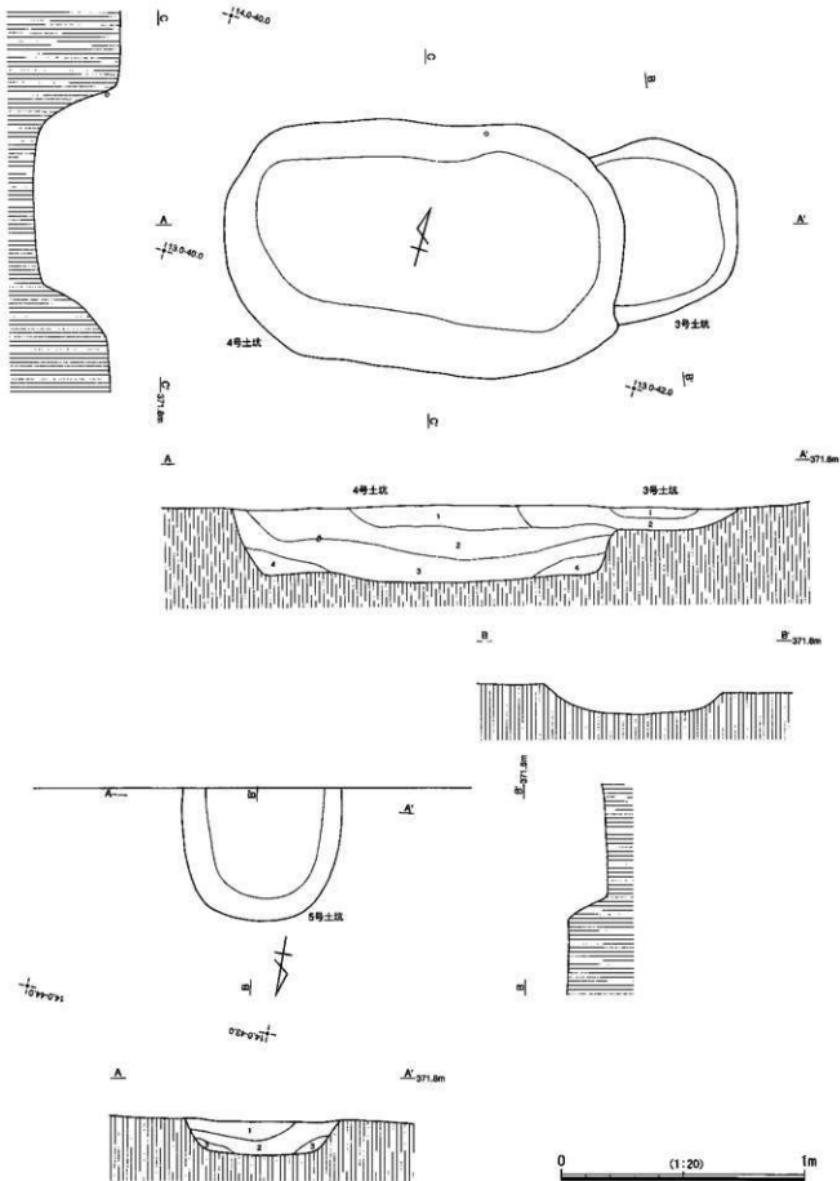
第6図 1号墓・46号ピットエレベーション図



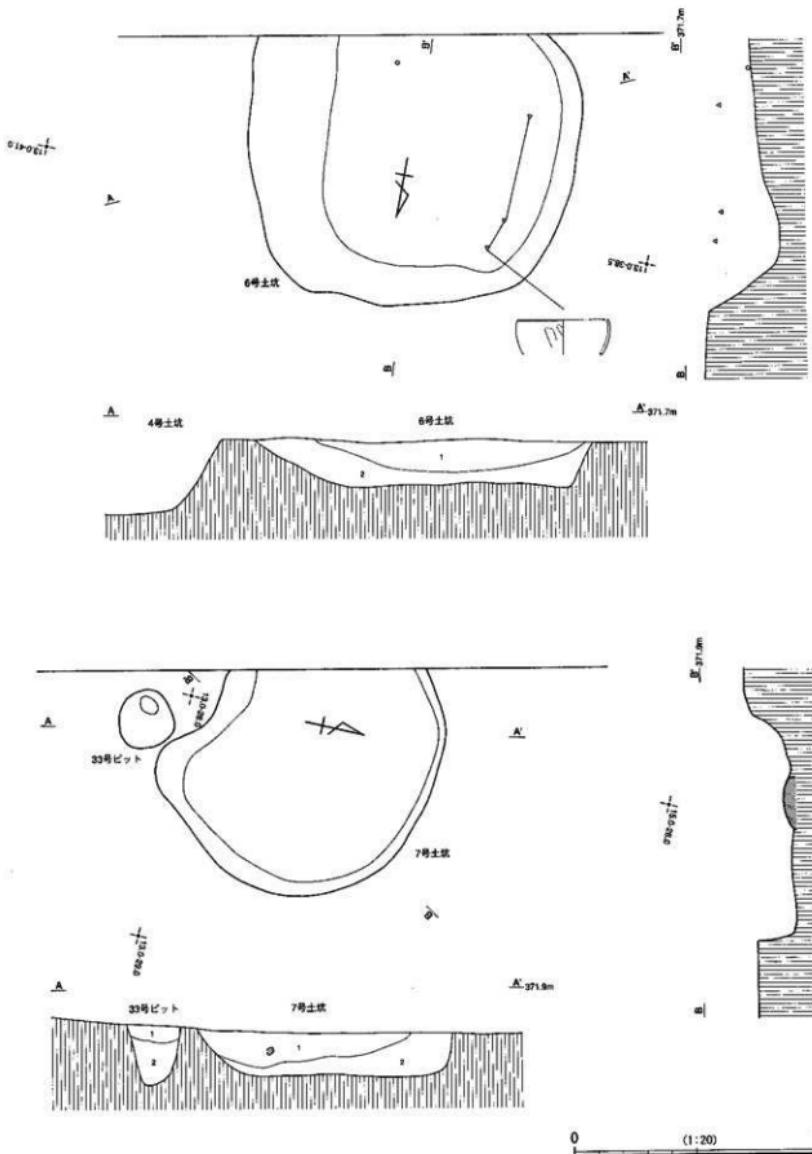
第7図 1号墓・46号ピット遺物分布図



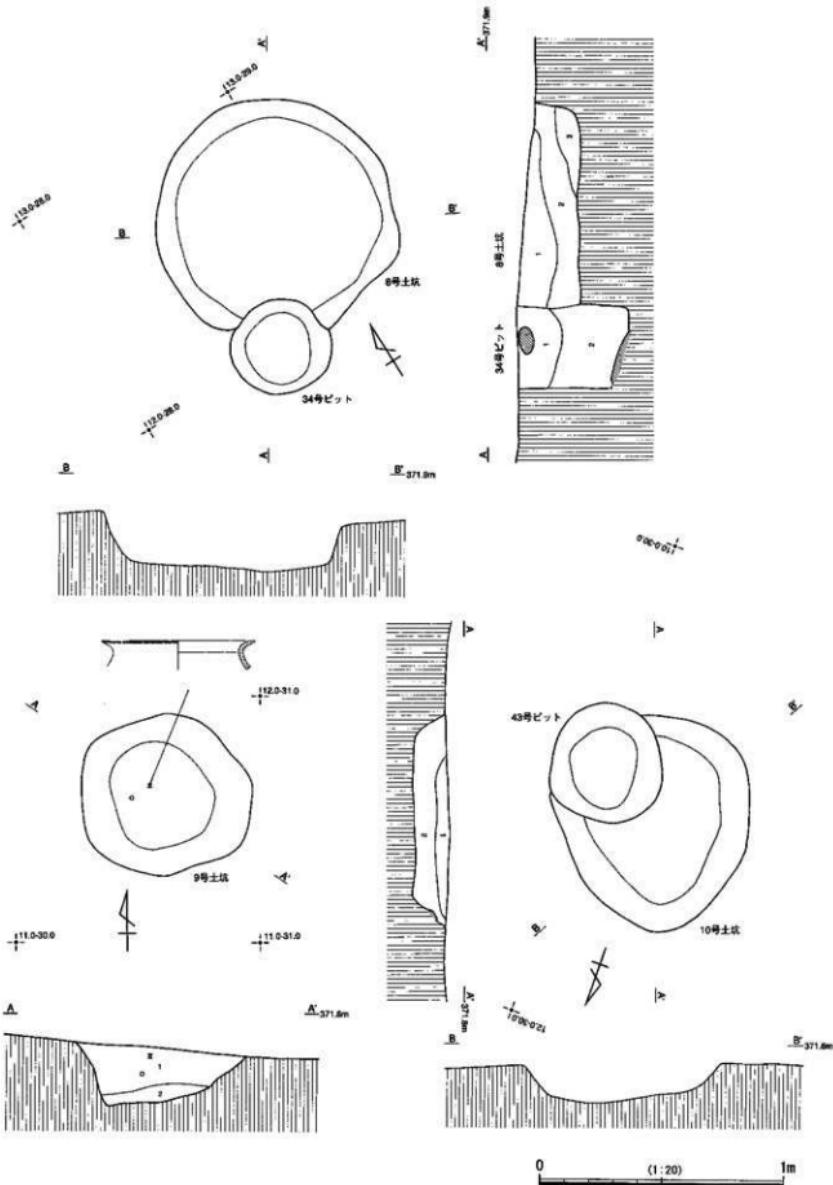
第8図 土坑・ビット平面図（1）



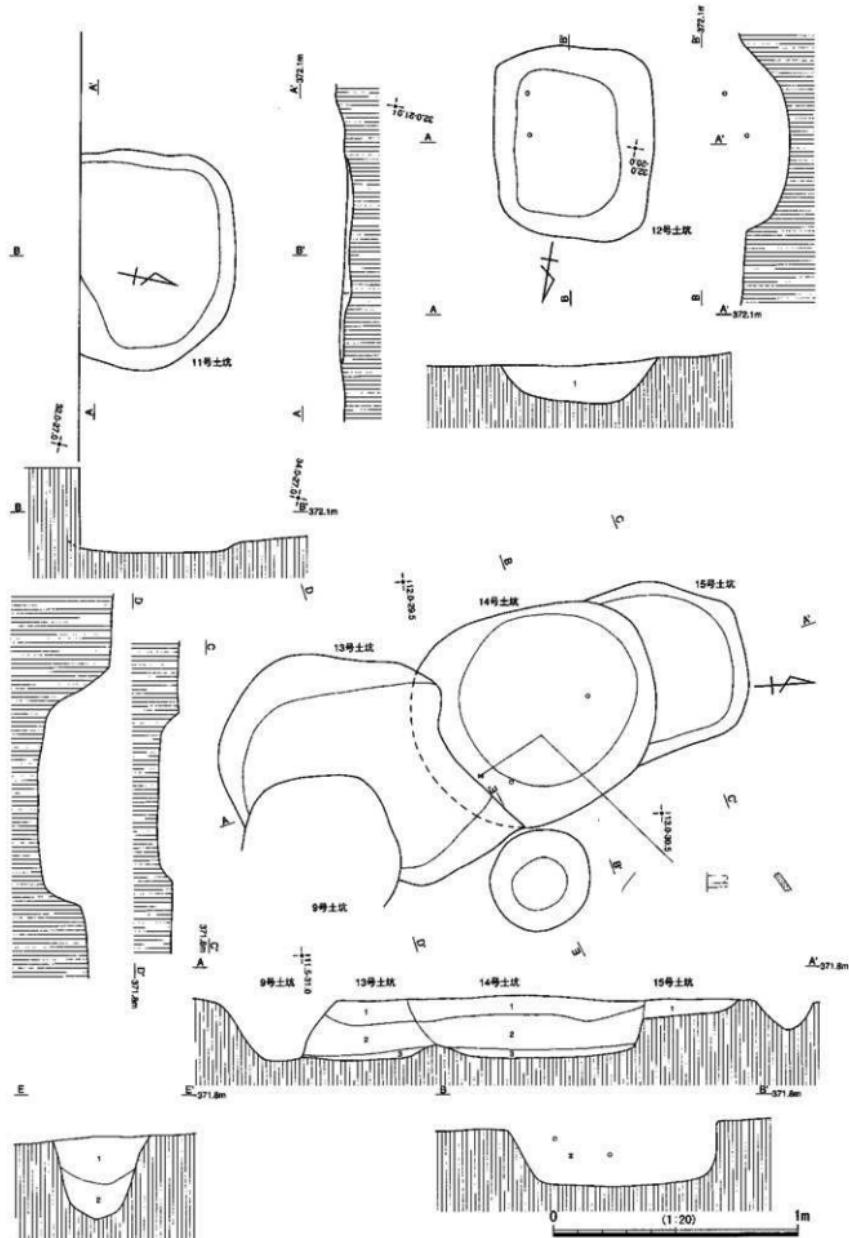
第9図 土坑・ピット平面図（2）



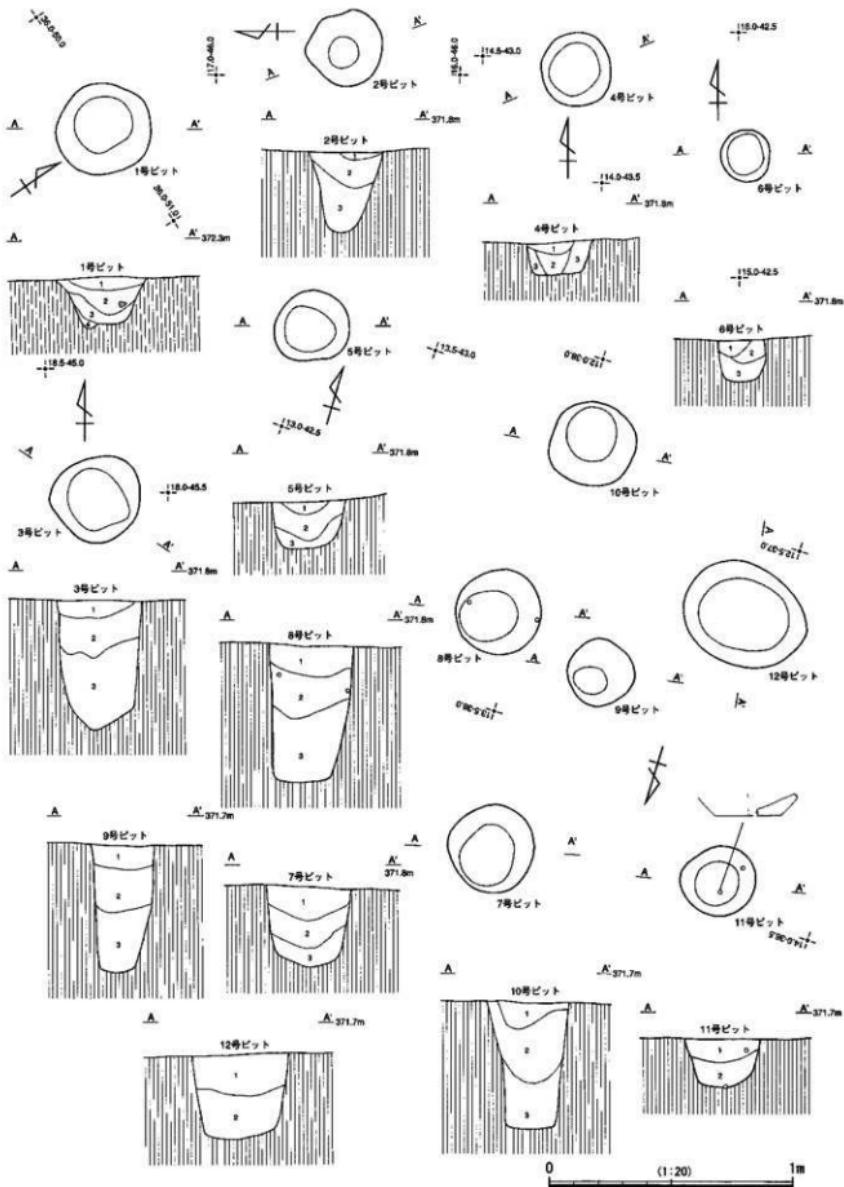
第10図 土坑・ビット平面図（3）



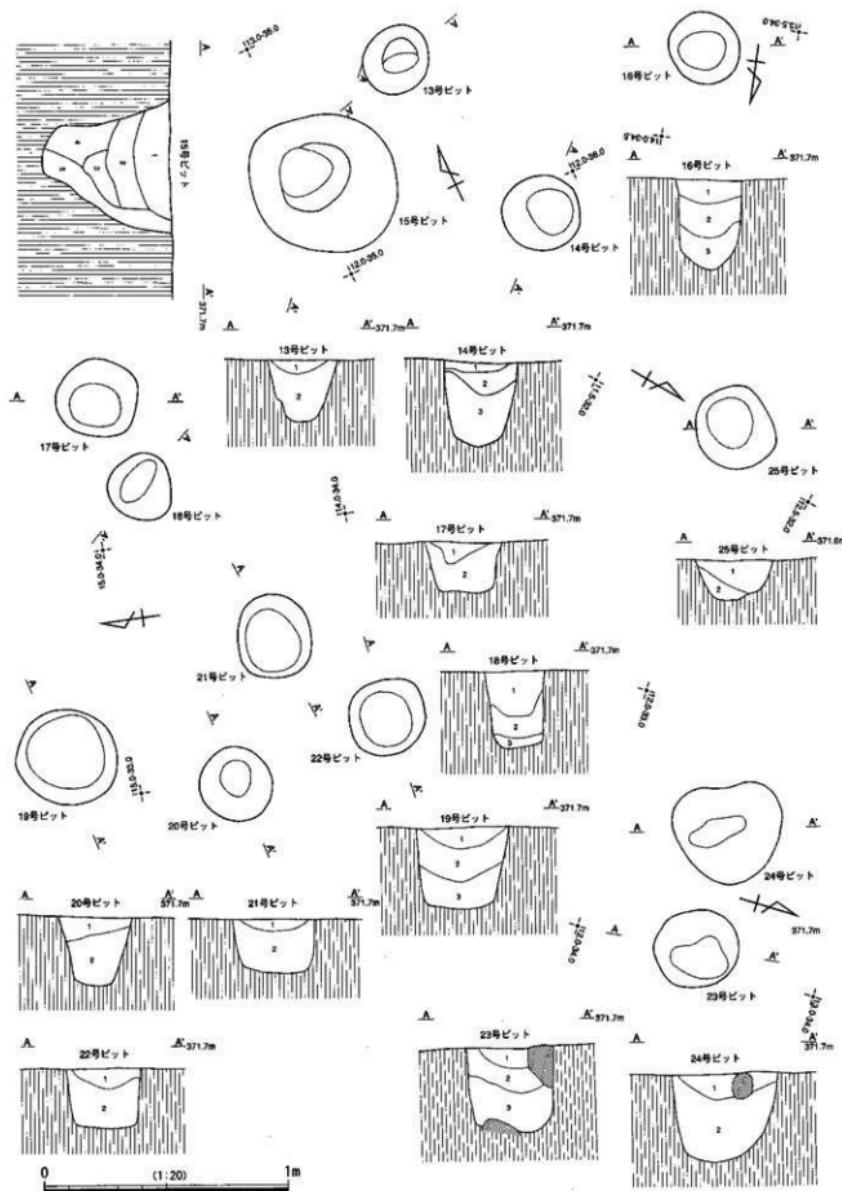
第11図 土坑・ビット平面図 (4)



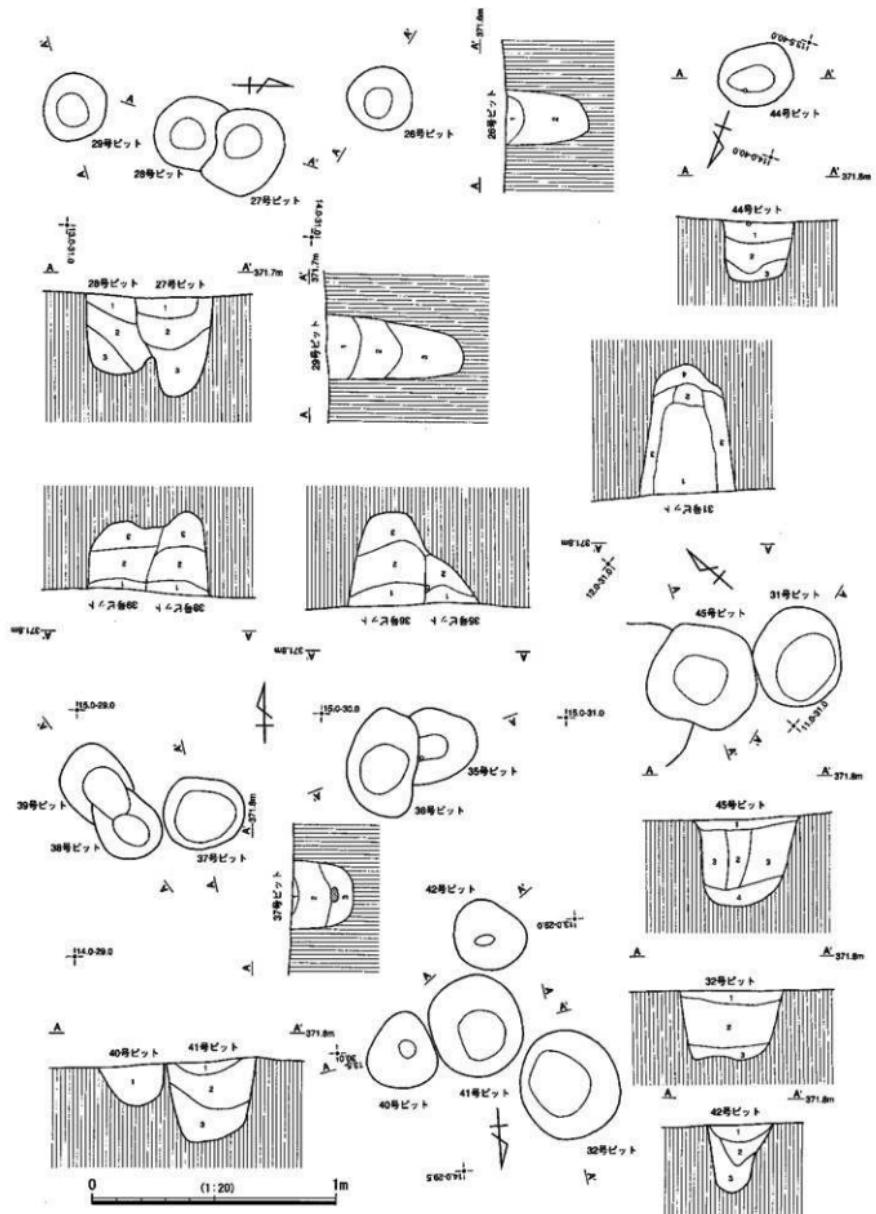
第12図 土坑・ピット平面図(5)



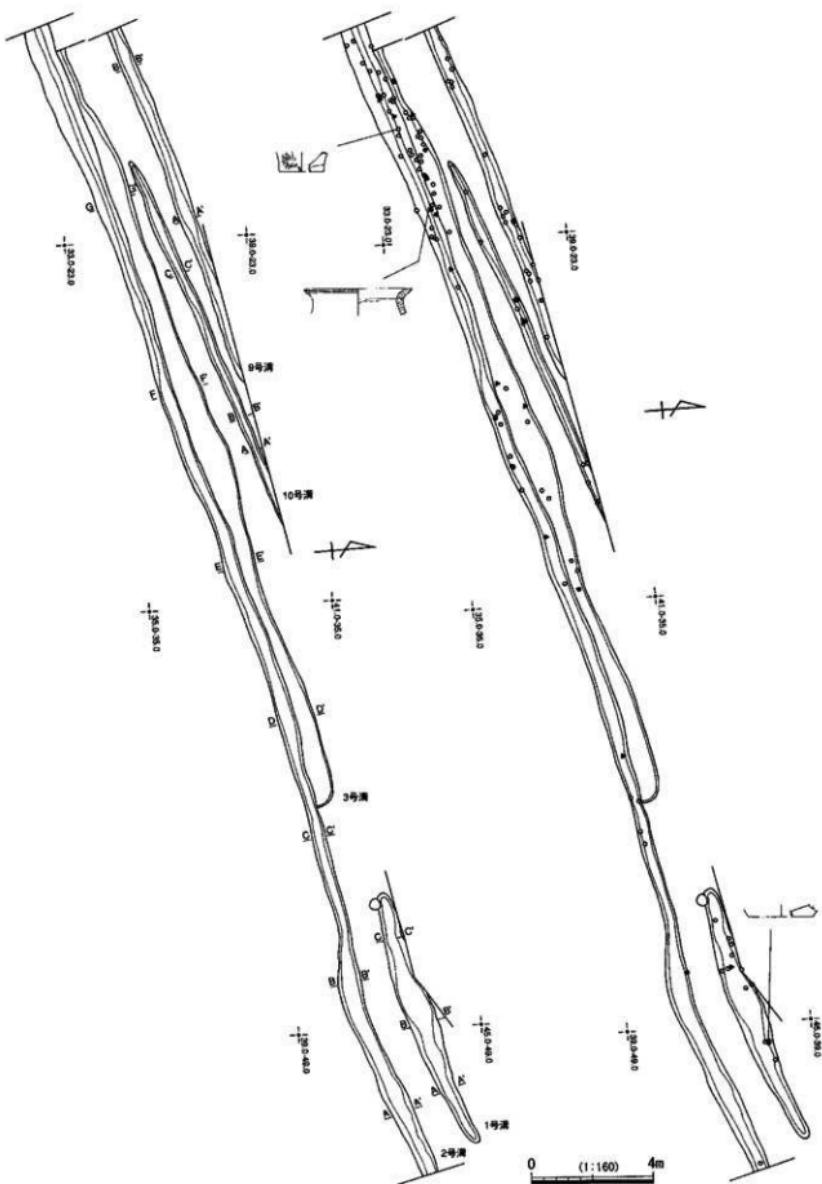
第13図 土坑・ピット平面図（6）



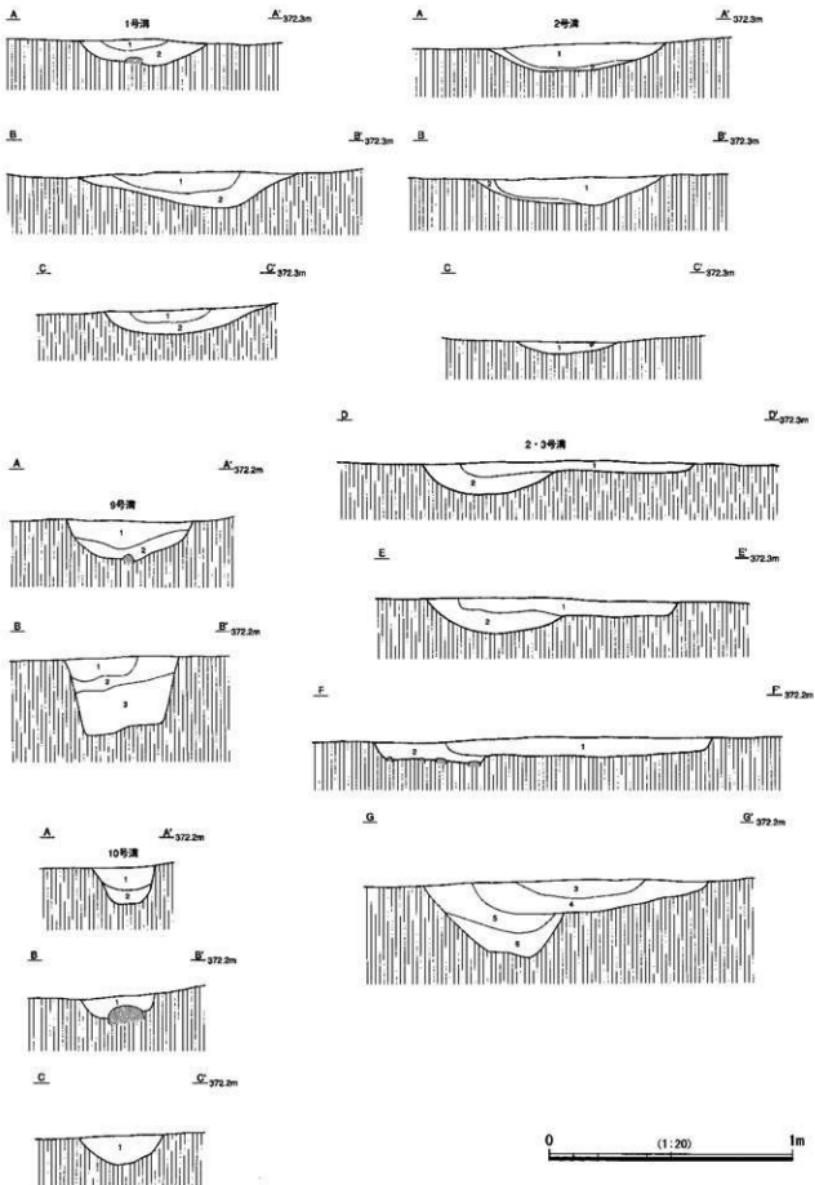
第14図 土坑・ピット平面図（7）



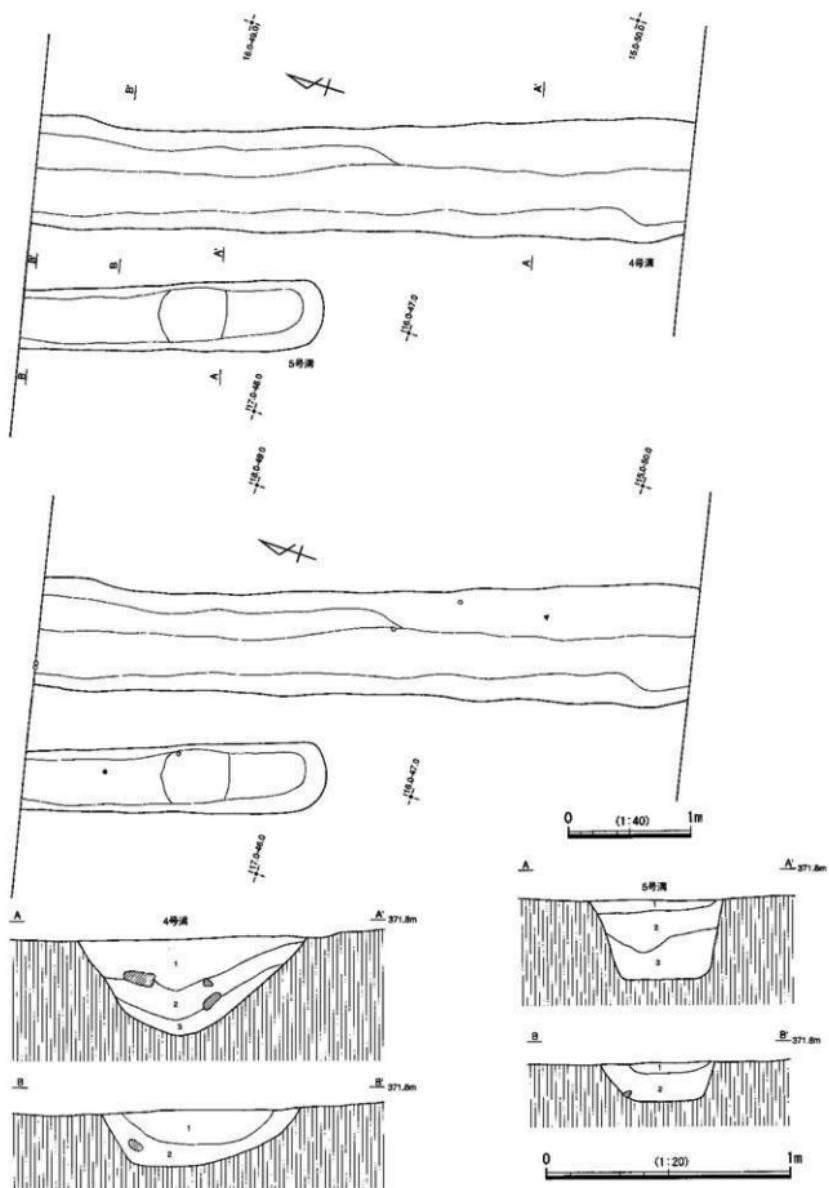
第15図 土坑・ビット平面図 (8)



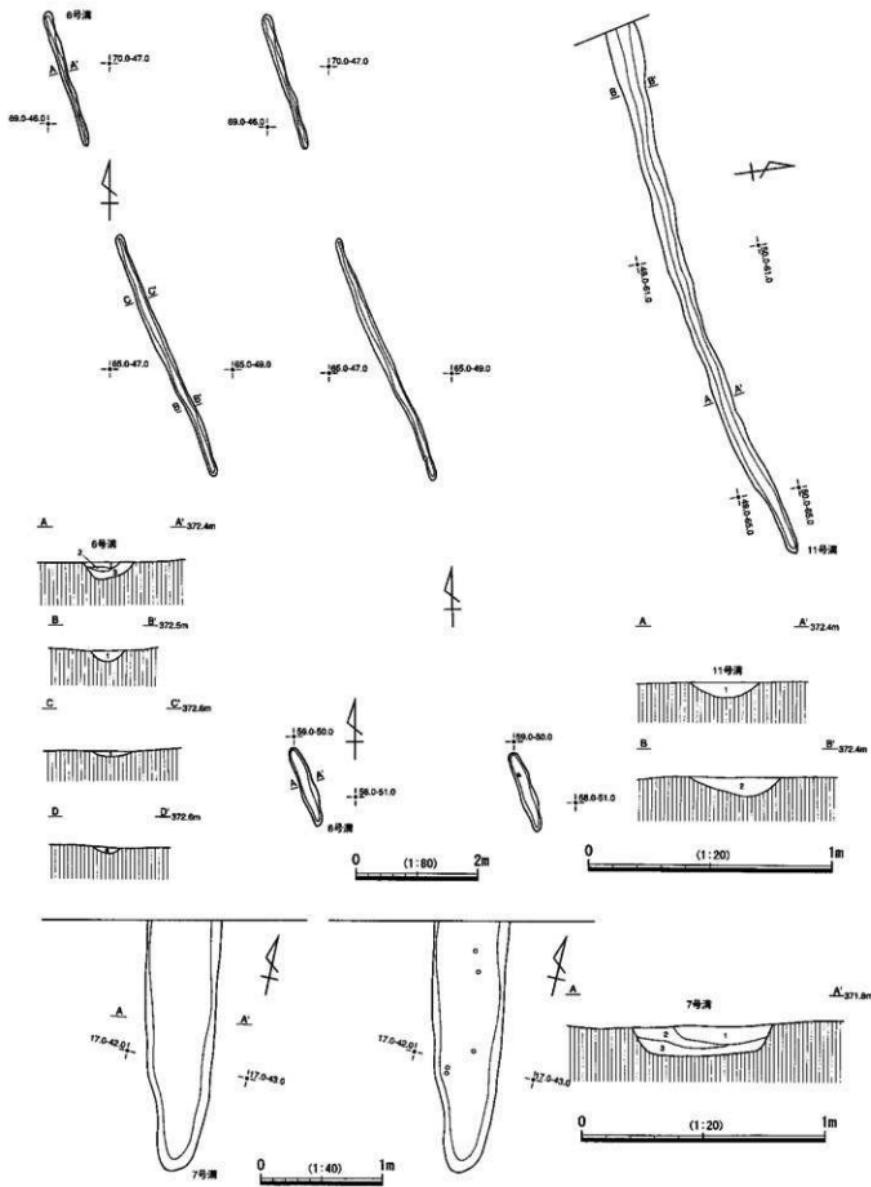
第16図 溝平面図(1)



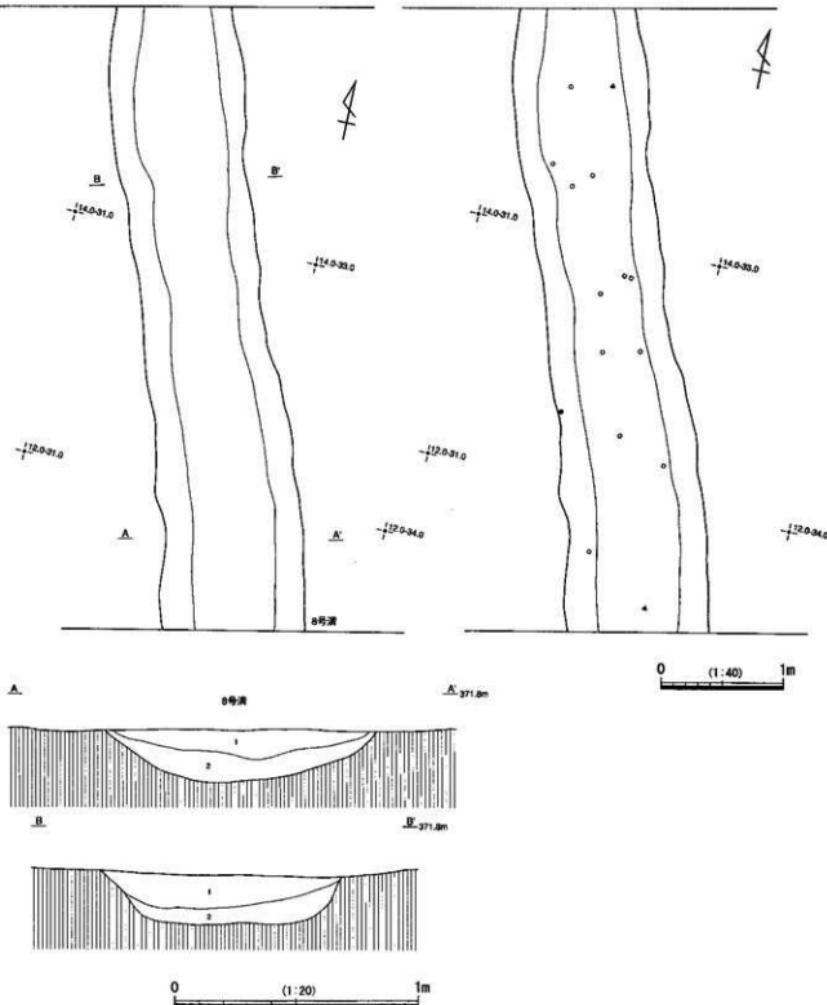
第17図 溝セクション図



第18図 溝平面図 (2)



第19図 溝平面図 (3)



第20図 溝平面図 (4)

## 土層説明

### 1号基土層

1層 黒褐色土層 (75YR2/3) 黄褐色土ブロックおよび粒子を多量に含む。砂質のためしまるが、粘性はない。

### 1号土坑土層

1層 黒褐色土層 (75YR2/1) 黄褐色土ブロックを多量に含む。カーボン、白色粒子も少量みられる。粘性に欠けるが、強くしまる。

2層 黑褐色砂質土層 (75YR3/2) 黄褐色土ブロックおよび白色砂粒を含む。しまりは強い。

3層 黑褐色土層 (75YR2/3) 赤褐色粒子をわずかに含む。粘性はないが、強くしまる。

### 2号土坑土層

1層 黒褐色土層 (75YR1/1) 多くの黄褐色土粒子、白色砂粒を含む。粘性に欠けるが、しまりは強い。

2層 黑褐色土層 (75YR2/1) 若干の黄褐色土ブロックおよび白色砂粒を含む。粘性に欠けるが、強くしまる。

### 3号土坑土層

1層 黑褐色土層 (75YR3/2) 黄褐色土ブロック、白色粒子および炭化物をわずかに含む。砂質のため、わずかにしまる。

2層 硫酸鈷色土層 (75YR2/3) 黄褐色土ブロックを多量に含む。粘性はなく、わずかにしまる。

### 4号土坑土層

1層 晴褐色土層 (75YR3/3) 黄褐色・白色ブロックを多量に、炭化物を少量含む。粘性、しまりともない。

2層 黑褐色土層 (75YR2/3) 黄褐色土ブロック、カーボンを多量に含む。粘性、しまりともない。

3層 黑褐色土層 (75YR2/3) 黄褐色土ブロック、カーボンをわずかに含む。粘性、しまりともない。

4層 黑褐色土層 (75YR3/2) 黄褐色土ブロック、白色砂粒ブロックを少量含む。粘性、しまりともない。

### 5号土坑土層

1層 黑褐色砂質土層 (75YR2/2) 黄褐色粒子を多く含み、強くしまる。

2層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色土ブロックを多く含む。粘性に欠けるが、しまりはある。

3層 増強褐色土層 (75YR3/3) 黄褐色粒子を多量に含む。やや砂質のため粘性に欠けるが、しまりはある。

### 6号土坑土層

1層 黑褐色土層 (75YR2/2) 黄褐色土ブロック、黄褐色粒子を多く含む。しまりはあるが、粘性はない。

2層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色粒子を多く含む。しまりはあるが、粘性はない。

### 7号土坑土層

1層 黑褐色土層 (75YR2/1) 焼土、カーボン、黄褐色土ブロックを多量に含む。粘性、しまりともない。

2層 黑褐色土層 (75YR2/2) 黄褐色粒子を多量に含む。粘性、しまりともない。

### 8号土坑土層

1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色土ブロック、カーボンを多量に含む。粘性、しまりともない。

2層 黑褐色土層 (75YR2/1) 焼土ブロックを多く含む。粘性、しまりともない。

3層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色粒子を多く含む。粘性、しまりともない。

### 9号土坑土層

1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色粒子、カーボンを多く含む。粘性、しまりともない。

2層 黑褐色土層 (75YR2/2) カーボン、白色粒子をわずかに含む。砂質であり、粘性、しまりともない。

### 10号土坑土層

1層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色土ブロック、焼土、カーボンを多量に含む。しまりはあるが、粘性はない。

2層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色土ブロック、カーボンをわずかに含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。

### 11号土坑土層

1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色・赤褐色粒子を多く含む。砂質であり、粘性、しまりともない。

### 12号土坑土層

1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色粒子、灰白色土ブロックをわずかに含む。粘性に欠けるが、しまりはある。

### 13号土坑土層

1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色土ブロック、粒子を多量に、カーボンを多く混入。粘性、しまりともない。

2層 黑褐色土層 (10YR2/1) 黄褐色・赤褐色土ブロック、カーボンを多量に含む。粘性、しまりともない。

3層 灰化土層

### 14号土坑土層

1層 増強黒褐色土層 (75YR2/3) 黄褐色・白色粒子を多く含む。粘性に欠けるが、強くしまる。

2層 黑褐色土層 (75YR2/2) 黄褐色土ブロック、カーボン、褐色・白色粒子を含む。粘性に欠けるが、強くしまる。

### 15号土坑土層

1層 黑褐色土層 (75YR2/2) 白色粒子を多く含む。粘性に欠けるが、強くしまる。

2層 硫酸鈷色土層 (75YR2/3) 黄褐色・白色粒子を多く含み、黄褐色土ブロックを少量含む。やや粘性があり、強くしまる。

3層 黑褐色土層 (75YR1/1) 白色粒子を多く含む。粘性に欠けるが、強くしまる。

### 16・17号土坑土層

1層 増強黒褐色土層 (75YR2/3) 黄褐色・白色粒子を多く含む。粘性はないと、強くしまる。

2層 黑褐色土層 (10YR2/3) 白色粒子を多く含む。やや粘性があり、強くしまる。

3層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色・白色粒子を多く含む。粘性はないが、強くしまる。

### 18号土坑土層

1層 増強黒褐色土層 (75YR2/3) 黄褐色・白色粒子を多く含む。粘性はないが、強くしまる。

2層 增強黒褐色土層 (75YR3/3) 白色粒子を多く含み、カーボンを少量含む。粘性、しまりなし。

### 19号土坑土層

1層 黑褐色砂質土層 (10YR3/2) 灰白色砂粒を多く含む。

2層 増強黒褐色土層 (10YR3/3) 灰白色砂粒を少量含む。ややしまりあり。

3層 黑褐色土層 (75YR3/2) 白色粒子を多量に含む。強くしまる。

### 20号土坑土層

1層 黑褐色土層 (75YR2/2) 白色粒子を少量化。粘性に欠けるが、強くしまる。

2層 増強黒褐色土層 (75YR2/3) カーボン、白色粒子を少量含む。やや粘性があり、強くしまる。

### 21号土坑土層

1層 増強黒褐色土層 (75YR2/3) 黄褐色・白色粒子を多く含む。粘性に欠けるが、強くしまる。

2層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色・白色粒子を多く含む。やや粘性があり、強くしまる。

### 22号土坑土層

1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色土ブロック、白色粒子を多く含む。強くしまる。

2層 増強黒褐色土層 (75YR2/3) 黄褐色土ブロックを多く含む。粘性、しまりなし。

3層 増強黒褐色土層 (75YR3/4) 黄褐色土ブロックを多量に含む。強くしまる。

4層 黑褐色土層 (75YR2/2) 黄褐色・白色粒子を少量含む。粘性に欠けるが、強くしまる。

### 23号土坑土層

1層 増強黒褐色土層 (75YR2/3) 黄褐色土ブロックを多量に含む。強くしまる。

2層 黑褐色土層 (75YR3/2) 黄褐色土ブロック、白色粒子を多く

含む。粘性、しまりあり。

#### 24号土坑土層

- 1層 黒褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色土ブロック、白色粒子を少額含む。粘性、しまりなし。
- 2層 明褐色土層 (7.5YR3/4) 黄褐色粒子を少量含む。粘性に欠けるが、強くしまる。

#### 25・26号土坑土層

- 1層 黒褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色・白色粒子を少量含む。粘性に欠けるが、強くしまる。
- 2層 暗褐色土層 (7.5YR2/3) 黄褐色粒子を多く含む。粘性に欠けるが、強くしまる。
- 3層 黒褐色土層 (7.5YR2/2) 白色粒子を多量に含み、黄褐色土粒子を少量みられる。粘性なし、強くしまる。
- 4層 暗褐色土層 (7.5YR2/3) 黄褐色・白色粒子を多く含む。粘性はないが、強くしまる。

#### 27号土坑土層

- 1層 暗褐色土層 (7.5YR2/3) 黄褐色・白色粒子を多量に含む。粘性はないが、強くしまる。
- 2層 黑褐色土層 (7.5YR3/2) 白色粒子を多く含み、黄褐色粒子も少額みられる。粘性はないが、強くしまる。

#### 28号土坑土層

- 1層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色粒子を多く含む。強くしまる。
- 2層 暗褐色土層 (7.5YR2/3) 黄褐色・白色粒子を多く含む。やや粘性があり、強くしまる。

#### 29号土坑土層

- 1層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色上、白色粒子を多く含む。粘性に欠けるが、強くしまる。
- 2層 暗褐色土層 (7.5YR3/3) 白色粒子を少量含む。粘性に欠けるが、強くしまる。

#### 30号土坑土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色・白色粒子を多く含み、やや砂質である。強くしまる。
- 2層 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 黄褐色・白色粒子を少額含む。粘性はないが、強くしまる。

#### 1号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 多くの黄褐色土ブロックおよび黒色土ブロックを含有する。粘性はないが強くしまる。
- 2層 暗褐色土層 (7.5YR2/3) 白色粒子を少量含む。粘性はないが、強くしまる。
- 3層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色粒子を多く含む。粘性はなくしまりもない。
- 4層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色粒子を多量に含む。砂質のため、粘性しまりともない。

#### 2号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色粒子を多量に含む。強くしまるが粘性はない。
- 2層 黑褐色土層 (7.5YR2/1) 黄褐色上粒子を多く含む。粘性はないが、強くしまる。
- 3層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色土粒子を多く含む。砂質のため粘性はない。

#### 3号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (5YR17/1) 黄褐色・白色粒子を多量に含む。粘性に欠けるが、強くしまる。
- 2層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色粒子をわずかに含む。粘性に欠け、やや砂質のためしまりも弱い。
- 3層 黑褐色土層 (7.5YR2/1) 白色粒子をわずかに含む。砂質のため、粘性、しまりともない。

#### 4号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色・白色粒子を多く含む。粘性に欠けるが、しまりはある。
- 2層 暗褐色土層 (7.5YR2/3) 白色粒子をわずかに含む。粘性はないが、しまりはある。
- 3層 黑褐色土層 (7.5YR2/3) 黄褐色粒子をわずかに含む。粘性はないが、しまりはある。

#### 5号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (7.5YR3/2) 黄褐色粒子をわずかに含む。粘性に欠けるが、しまりはある。
- 2層 暗褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色土ブロックを少量含む。粘性に欠けるが、しまりはある。
- 3層 暗褐色土層 (7.5YR2/3) 黄褐色土ブロックを多く含む。粘性に欠けるが、しまりはある。

#### 6号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色土ブロック、赤褐色・白色粒子を若干含む。粘性に欠けるが、しまりはある。
- 2層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色粒子をわずかに含む。粘性に欠けるが、しまりはある。
- 3層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 赤褐色粒子を若干含む。粘性に欠けるが、しまりはある。

#### 7号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色土ブロックを多量に含む。砂質であるが、しまりはある。
- 2層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色土ブロック、白色粒子をわずかに含む。粘性に欠けるが、しまりはある。
- 3層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色粒子をわずかに含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。

#### 8号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色土ブロック、カーボン、白色粒子を多く含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。
- 2層 黑褐色土層 (7.5YR2/1) 黄褐色土ブロック、白色粒子を少額含む。粘性はなく、しまりも弱い。
- 3層 黑褐色土層 (10YR2/2) 白色砂粒を多く含む。砂質のため、粘性はないが、ややしまる。

#### 9号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色・白色粒子を多く含む。粘性に欠けるが、強くしまる。
- 2層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色土ブロックをわずかに含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。
- 3層 黑褐色土層 (10YR2/2) 白色砂粒を多く含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。

#### 10号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色土ブロック、白色砂粒多く含む。粘性はなく、しまりもあるが、粘性に欠ける。
- 2層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) カーボン、白色砂粒を多く含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。
- 3層 黑褐色土層 (10YR2/3) 白色砂粒を若干含む。やや粘性を持ち、しまりもある。

#### 11号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色粒子、カーボンを多く含む。粘性に欠けるが、しまりはある。
- 2層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色土ブロックを多く含む。粘性に欠けるが、しまりはある。

#### 12号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色土ブロック、白色粒子、カーボンを多量に含む。粘性に欠けるが、しまりはある。
- 2層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色土ブロックを多く含む。砂質のため、粘性はないが、しまりはある。

#### 13号ビット土層

- 1層 暗褐色土層 (7.5YR2/3) 黄褐色土ブロック、赤褐色粒子を含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。
- 2層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色土ブロックをわずかに含む。やや粘性があり、しまりもある。

#### 14号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色土ブロック、カーボンを多く含む。粘性、しまりともに欠ける。
- 2層 黑褐色土層 (10YR2/2) 赤褐色粒子、カーボンを多量に含む。粘性に欠けるが、しまりはある。
- 3層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色粒子を多く含む。粘性に欠けるが、しまりはある。

#### 15号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色土ブロック、燒土、カーボン

- を多量に含む。粘性に欠けるが、しまりはある。
- 2層 黒褐色土層 (10YR3/2) 黄褐色粒子をわずかに含む。粘性、しまりともない。
- 3層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色・白色粒子を多く含む。粘性、しまりともない。
- 4層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 白色砂粒を多く含む。砂質のため、粘性、しまりともない。
- 5層 黑褐色土層 (10YR3/3) 黄褐色土ブロック、白色粒子を含む。砂質であるが、粘性はないが、しまりはある。

#### 16号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色・白色粒子を多く含み、カーボンもみられる。粘性はないがしまりがある。
- 2層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色粒子、カーボンをわずかに含む。粘性に欠けるが、しまりはある。
- 3層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 白色砂粒を多く含む。粘性はないが、ややしまる。

#### 17号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色・赤褐色・白色粒子を多く含む。粘性はないが、ややしまる。
- 2層 黑褐色土層 (2.5YR1.7/1) 黄褐色土ブロックを多く含む。砂質のため、粘性はないが、しまりはある。

#### 18号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色・赤褐色・白色粒子を多量に含む。粘性はなく、ややしまる。
- 2層 黑褐色土層 (10YR2/1) 白色砂粒を多量に含む。しまりはあるが、粘性はない。
- 3層 黑褐色土層 (7.5YR3/2) 黄褐色粒子を多量に含む。砂質のため、粘性はないが、ややしまる。

#### 19号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色・白色粒子を多量に含む。粘性はないが、ややしまる。
- 2層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色・白色粒子をわずかに含む。粘性はないが、ややしまる。
- 3層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 白色粒子をわずかに含む。砂質であり、粘性はないが、強くしまる。

#### 20号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色土ブロック、白色粒子を多量に含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。
- 2層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色土ブロックをわずかに含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。

#### 21号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色土ブロック、白色粒子を多量に含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。
- 2層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色土ブロック、白色粒子を若干含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。

#### 22号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (7.5YR2/1) 黄褐色土ブロック、白色粒子を多く含む。しまりはあるが、粘性はない。
- 2層 黑褐色土層 (10YR2/2) 白色粒子を多く含む。しまりはあるが、粘性はない。

#### 23号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色土ブロック、白色粒子を多く、カーボンをわずかに含む。粘性はないが、ややしまる。
- 2層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色土ブロック、白色粒子を多く含む。粘性はないが、ややしまる。
- 3層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 白色粒子を多く含む。粘性、しまりともない。

#### 24号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色粒子および白色粒子を多量に含む。粘性、しまりともない。
- 2層 黑褐色土層 (10YR2/2) 白色粒子を若干含む。砂質のため、粘性、しまりともない。

#### 25号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色土ブロックを多く含む。しまりはあるが、粘性はない。
- 2層 黑褐色土層 (10YR2/1) 赤褐色粒子を多く含む。粘性、しまりともない。

ともにない。

#### 26号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (7.5YR1.7/1) 黄褐色・赤褐色粒子を含む。砂質であり、粘性、しまりともない。
- 2層 黑褐色土層 (10YR2/2) 白色砂粒を多く含む。しまりはあるが、粘性はない。

#### 27号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR2/1) 黄褐色粒子を多量に、赤褐色粒子、カーボンをわずかに含む。粘性、しまりともない。
- 2層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色粒子およびカーボンを多く含む。しまるが、粘性はない。
- 3層 黑褐色土層 (10YR1.7/1) 赤褐色粒子を多く含む。しまるが、粘性はない。

#### 28号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (7.5YR2/1) 褐色粒子を多く含む。しまりはあるが、粘性はない。
- 2層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色土ブロックを多く含む。しまりはあるが、粘性はない。
- 3層 褐褐色土層 (7.5YR2/3) 白色砂粒を多く含む。砂質のため、粘性、しまりともない。

#### 29号ビット土層

- 1層 褐褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色土ブロックを多く、カーボンをわずかに含む。しまりはあるが、粘性はない。
- 2層 褐褐色土層 (7.5YR2/2) 褐色粒子、カーボンを含む。砂質のため、粘性、しまりともない。
- 3層 褐褐色土層 (7.5YR2/2) 褐色粒子を多く含む。砂質のため、粘性、しまりともない。

#### 30号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 赤褐色・黄褐色粒子、カーボンを多く含む。しまりはあるが、粘性はない。
- 2層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 白色砂粒を多く含む。粘性、しまりともない。

#### 31号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR1.7/1) 燃土、カーボンを多く含む。しまりはあるが、粘性はない。
- 2層 黑褐色土層 (10YR3/3) 黄褐色粒子、白色砂粒を多く含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。
- 3層 黑褐色土層 (10YR2/3) 赤褐色粒子を多く含む。砂質のため、粘性、しまりともない。
- 4層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色粒子を多く含む。粘性、しまりともない。

#### 32号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR1.7/1) 赤褐色粒子、カーボンを多量に含む。しまりはあるが、粘性はない。
- 2層 黑褐色土層 (10YR2/2) 赤褐色粒子を若干含む。砂質のため、粘性はない。

#### 33号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色粒子を若干含む。粘性、しまりともない。
- 2層 黑褐色土層 (7.5YR2/1) 黄褐色土ブロックを含む。粘性、しまりともない。

#### 34号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR2/2) カーボンを多く含む。しまりはあるが、粘性はない。
- 2層 黑褐色土層 (7.5YR1.7/1) 黄褐色土ブロックを多く含む。しまりはあるが、粘性はない。

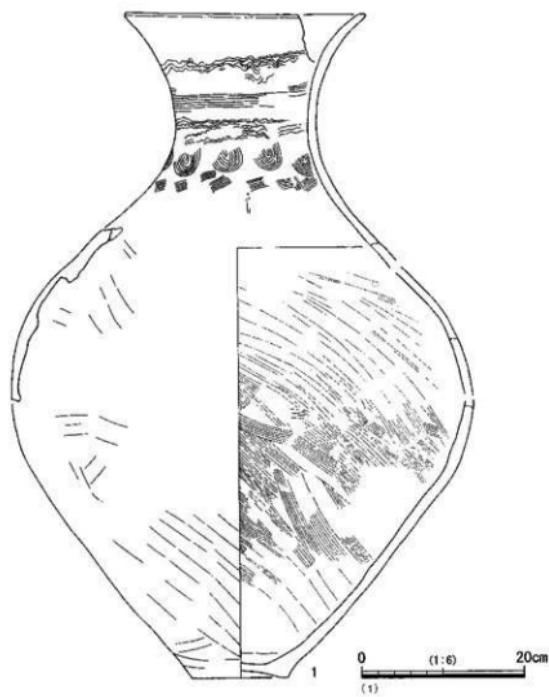
#### 35号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (7.5YR1.7/1) 黄褐色粒子を多く含む。粘性、しまりともない。
- 2層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 赤褐色粒子を含む。粘性、しまりともない。

#### 36号ビット土層

- 1層 黑褐色土層 (10YR2/1) 黄褐色粒子をわずかに含む。粘性、しまりともない。
- 2層 黑褐色土層 (10YR2/2) 赤褐色粒子を多量に含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。

- 3層 黒褐色土層 (10YR2/3) 白色砂粒を多く含む。砂質であり、粘性、しまりともない。
- 37号ビット土層  
 1層 黒褐色土層 (7.5YR2/1) 黄褐色粒子を多く含む。砂質のため、粘性、しまりともない。  
 2層 黒褐色土層 (5YR2/1) 白色砂粒を含む。砂質のため、粘性、しまりともない。  
 3層 黒褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色粒子を多く含む。砂質のため、粘性、しまりともない。
- 38号ビット土層  
 1層 黒褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色・暗赤褐色粒子を多く含む。粘性、しまりともない。  
 2層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色粒子を多量に含む。粘性、しまりともない。  
 3層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色粒子をわずかに含む。粘性、しまりともない。
- 39号ビット土層  
 1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色粒子および黄褐色土ブロックを多量に含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。  
 2層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 暗赤褐色粒子を多く含む。粘性、しまりともない。  
 3層 黑褐色土層 (7.5YR3/2) 握り粒子を少量含む。粘性、しまりともない。
- 40号ビット土層  
 1層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色土ブロックを多量に、カーボンをわずかに含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。
- 41号ビット土層  
 1層 黑褐色土層 (10YR2/3) 多量の黄褐色土ブロック、少量のカーボンを含む。しまりはあるが、粘性はない。  
 2層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色粒子・白色砂粒を含む。しまりはあるが、粘性はない。  
 3層 黑褐色土層 (7.5YR3/2) 黄褐色粒子をわずかに含む。粘性、しまりともない。
- 42号ビット土層  
 1層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色粒子をわずかに含む。しまりはあるが、粘性はない。  
 2層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色粒子を多く含む。しまりはあるが、粘性はない。  
 3層 黑褐色土層 (10YR2/2) 暗赤褐色粒子および白色砂粒を多く含む。しまりはあるが、粘性はない。
- 44号ビット土層  
 1層 黑褐色土層 (10YR2/3) 白色・暗赤褐色粒子を多く含む。しまりはあるが、粘性はない。  
 2層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色粒子をわずかに含む。粘性、しまりともない。  
 3層 黑褐色土層 (7.5YR2/3) 黄褐色粒子を多く含む。粘性、しまりともない。
- 45号ビット土層  
 1層 黑褐色土層 (10YR2/3) カーボン、焼土、黄褐色土ブロックを多量に含む。砂質のため、粘性、しまりともない。  
 2層 黑褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色粒子をわずかに含む。粘性、しまりともない。  
 3層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色粒子、カーボンをわずかに含む。粘性、しまりともない。  
 4層 増褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色粒子を多く含む。砂質のため、粘性、しまりともない。
- 1号溝土層  
 1層 黑褐色砂質土層 (7.5YR2/2) 黄褐色砂質ブロックおよび暗褐色砂質ブロックを含む。しまりがあるが、粘性はない。
- 2・3号溝土層  
 1層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色粒子および暗赤褐色土ブロックを多く含む。しまりはあるが、粘性はない。
- 2層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色粒子を多く含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。
- 3層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色粒子を多量に含む。しまりはあるが、粘性はない。
- 4層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色粒子を多く含む。粘性、しまりともない。
- 4号溝土層  
 1層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色・暗赤褐色土ブロックを若干含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。
- 2層 暗褐色土層 (7.5YR2/3) 暗赤褐色土ブロックを含む。粘性はなく、しまりもどんづ。  
 3層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色・白色粒子を多く含む。やや砂質で、粘性はない。
- 5号溝土層  
 1層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色粒子、白色粒子を多く含む。やや砂質のため粘性はなく、しまりも弱い。  
 2層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色土ブロックを多量に含む。やや砂質のため粘性はないが、若干しまる。  
 3層 黑褐色土層 (10YR2/2) 暗赤褐色土ブロックを多く含む。やや砂質のため粘性、しまりともない。
- 6号溝土層  
 1層 黑褐色砂質土層 (7.5YR2/3) 白色砂粒、黄褐色粒子を多く含む。粘性、しまりともなし。  
 2層 黑褐色砂層 (10YR2/3) 黄褐色土ブロックを少量含む。粘性、しまりともない。  
 3層 出現土層 (7.5YR2/3) 黄褐色土ブロックを多く含む。粘性、しまりともない。  
 4層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色土ブロックを多量に含む。粘性、しまりともない。
- 7号溝土層  
 1層 瓶附褐色土層 (7.5YR2/3) 黄褐色土ブロック、白色粒子を多量に含む。粘性に欠けるが、強くしまる。  
 2層 黑褐色土層 (10YR1/1) 黄褐色・白色粒子を多量に含む。粘性に欠けるが、強くしまる。  
 3層 黑褐色土層 (10YR2/3) 暗褐色粒子を多量に、白色粒子をわずかに含む。粘性をわずかにもら、強くしまる。
- 8号溝土層  
 1層 黑褐色土層 (10YR2/2) 多量の黄褐色土ブロック、少量のカーボンを含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。  
 2層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色粒子・赤褐色土ブロックをわずかに含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。
- 9号溝土層  
**A-A'**  
 1層 黑褐色土層 (10YR2/3) 暗褐色土ブロックと黄褐色粒子を多量に含む。砂質であり、しまりはあるが、粘性はない。  
 2層 黑褐色土層 (10YR2/2) 暗褐色土ブロックと黄褐色粒子を多量に含む。砂質であり、しまりはあるが、粘性はない。  
**B-B'**  
 1層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色土ブロックを多量に含む。砂質でありしまりはあるが、粘性はない。  
 2層 黑褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色粒子を多く含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。  
 3層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色土ブロック、黄褐色粒子を多量に含む。しまるが、粘性はない。
- 10号溝土層  
 1層 黑褐色土層 (7.5YR2/2) 黄褐色土ブロック、黄褐色粒子を多量に含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。
- 11号溝土層  
 1層 増褐色土層 (7.5YR3/4) 黑褐色土ブロックを多く含む。しまりはあるが、粘性に欠ける。  
 2層 暗褐色土層 (7.5YR2/3) 灰白色砂粒をブロック状に混入。しまるが、粘性に欠ける。



- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -
1 □ 2	1 □ 3	1 □ 4	1 □ 5	1 □ 6	1 □ 7	1 □ 8	1 □ 9	1 □ 10	1 □ 11
- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -
1 □ 12	1 □ 13	1 □ 14	1 □ 15	1 □ 16	1 □ 17	1 □ 18	1 □ 19	1 □ 20	1 □ 21
- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -
1 □ 22	1 □ 23	1 □ 24	1 □ 25	1 □ 26	1 □ 27	1 □ 28	1 □ 29	1 □ 30	1 □ 31
- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -
1 □ 32	1 □ 33	1 □ 34	1 □ 35	1 □ 36	1 □ 37	1 □ 38	1 □ 39	1 □ 40	1 □ 41
- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -	- ② -				
1 □ 42	1 □ 43	1 □ 44	1 □ 45	1 □ 46					

0 (1:6) 2cm  
(1)

0 (1:1) 2cm  
(2~46)

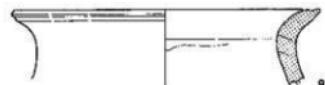
第21図 出土遺物 (1)



土坑



ピット  
0 (1:3)  
(1~13、15~17) 10cm



溝



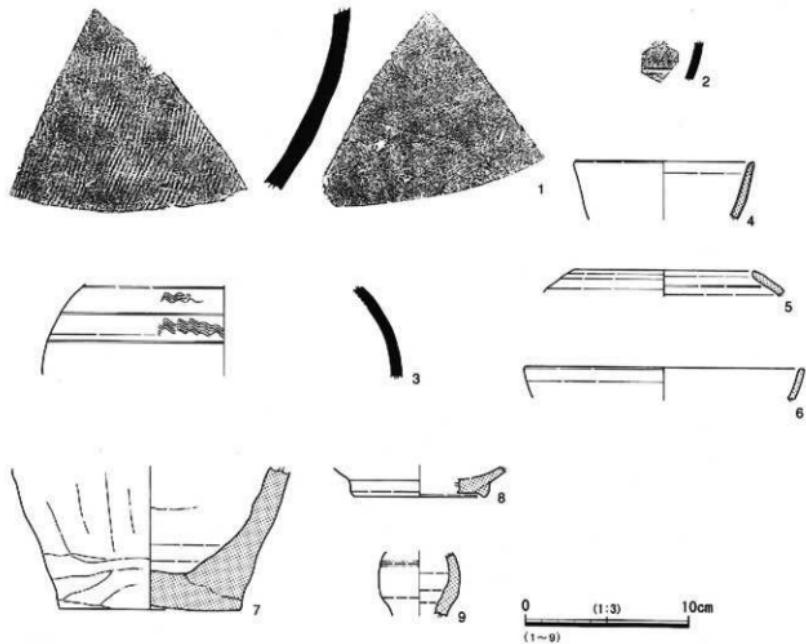
0 (1:6)  
20cm

14

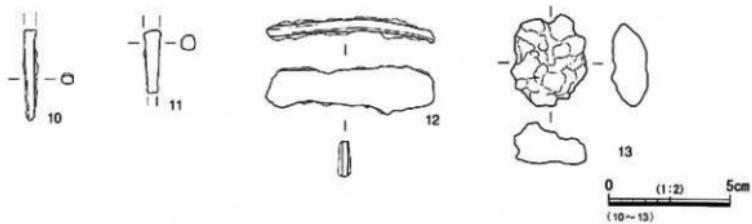
15

16 17  
グリッド

第22図 出土遺物 (2)



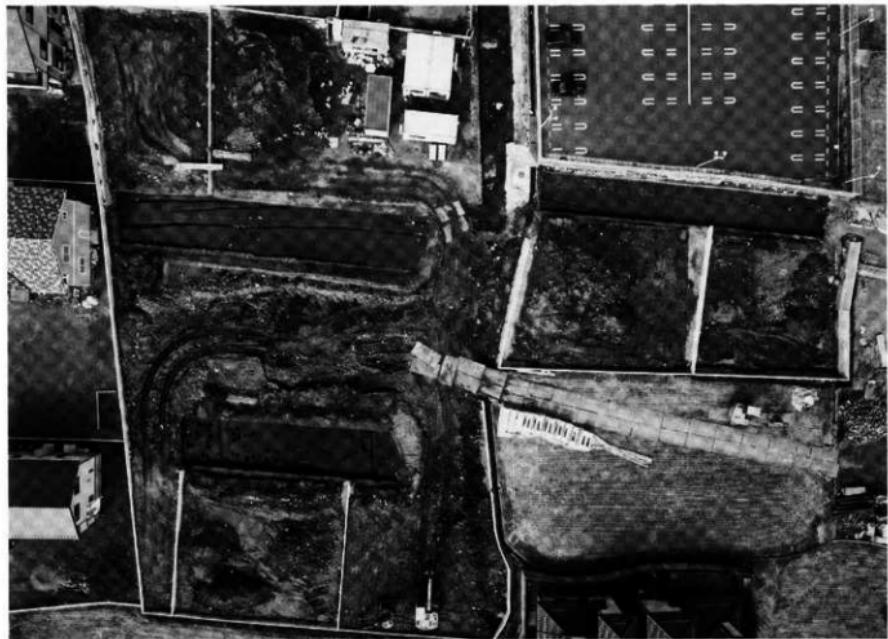
グリッド



第23図 出土遺物 (3)

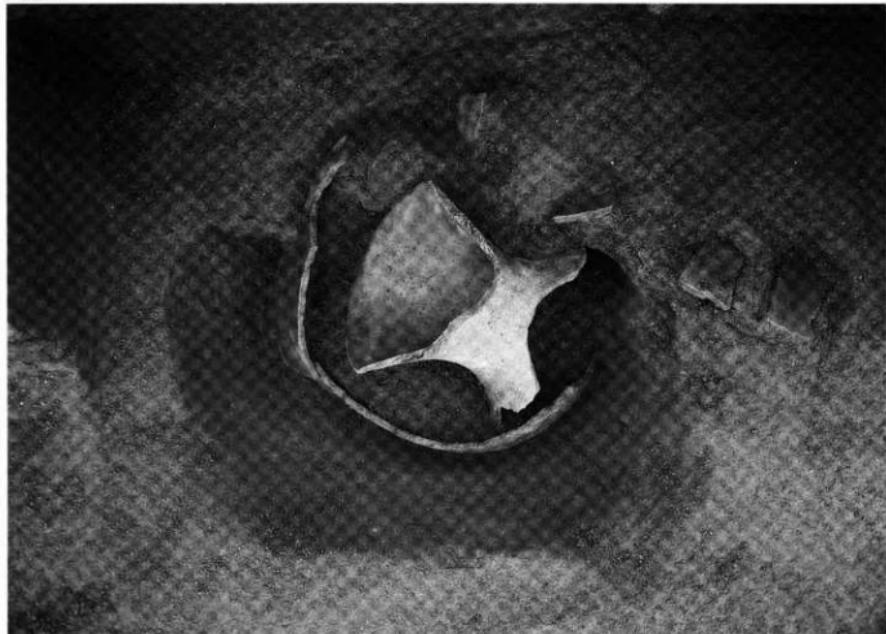


1 航空写真 (1)



2 航空写真 (2)

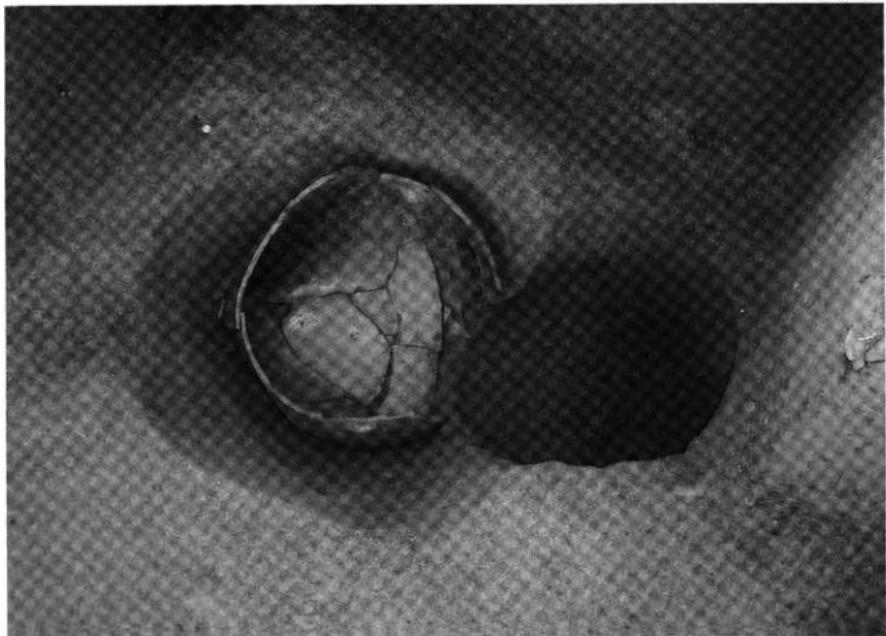
図版 2



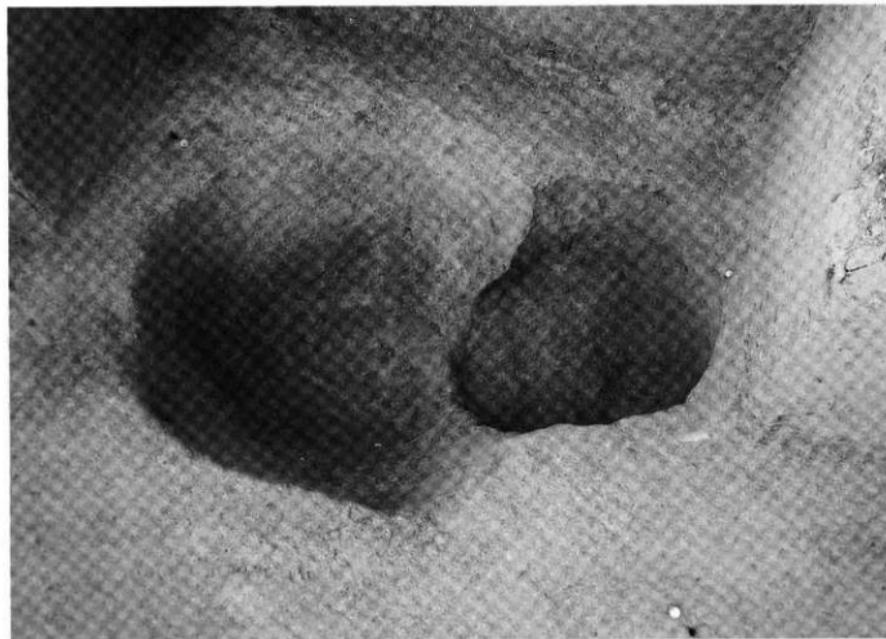
1 1号墓土器棺検出状況



2 1号墓ガラス玉検出状況

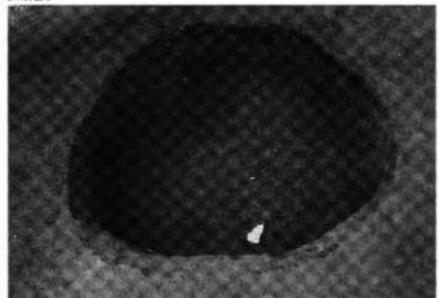


1 1号墓土器棺完掘状況

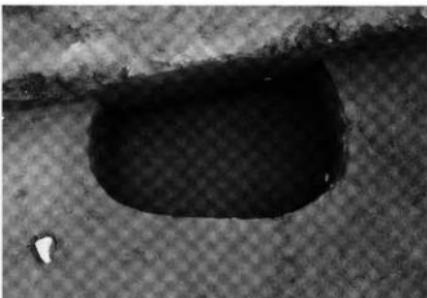


2 1号墓堀り方

図版 4



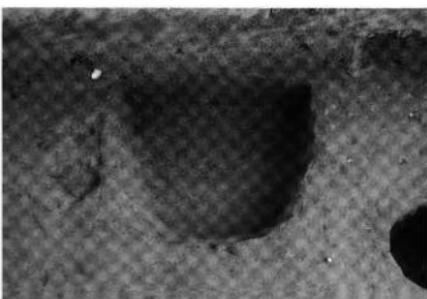
1 1号土坑全景



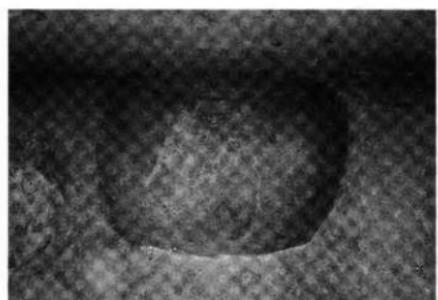
2 2号土坑全景



3 3・4号土坑全景



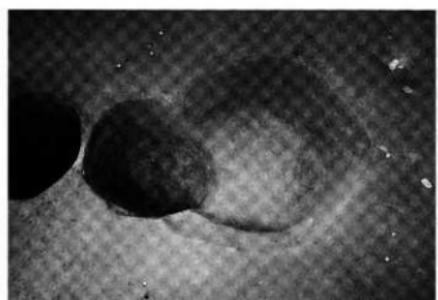
4 5号土坑全景



5 6号土坑全景



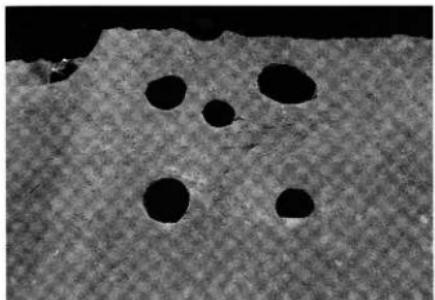
6 8号土坑全景



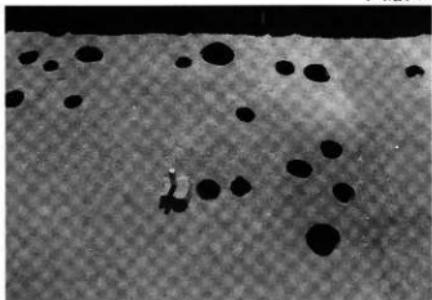
7 9号土坑全景



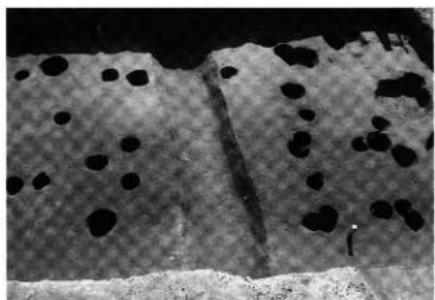
8 12号土坑全景



1 ピット群全景(1)



2 ピット群全景(2)



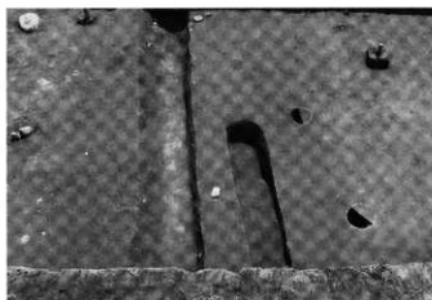
3 ピット群全景(3)



4 1号溝全景



5 2・3号溝全景



6 4・5号溝全景

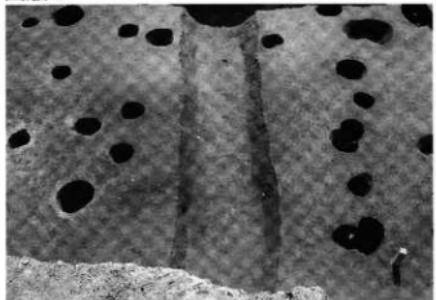


7 6号溝全景

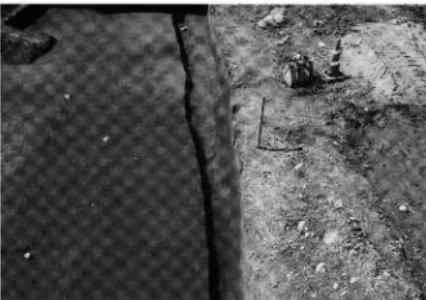


8 7号溝全景

図版 6



1 8号溝全景



2 9号溝全景



3 10号溝全景



4 11号溝全景



5 調査風景(1)



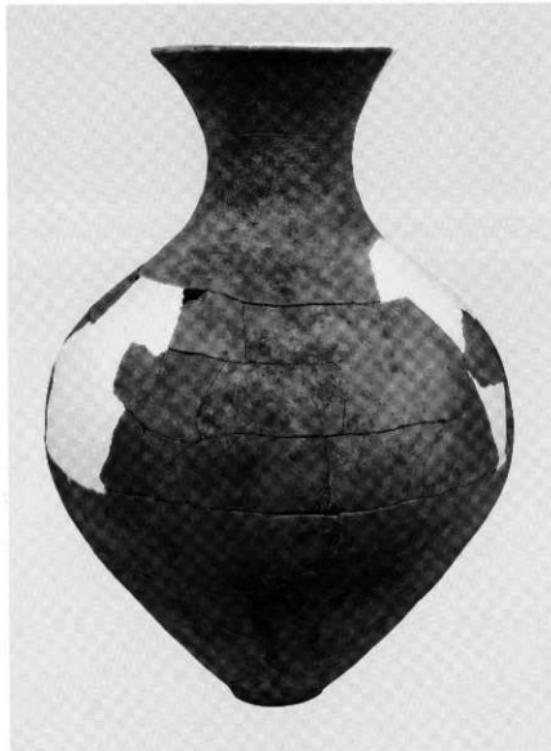
6 調査風景(2)



7 調査風景(3)



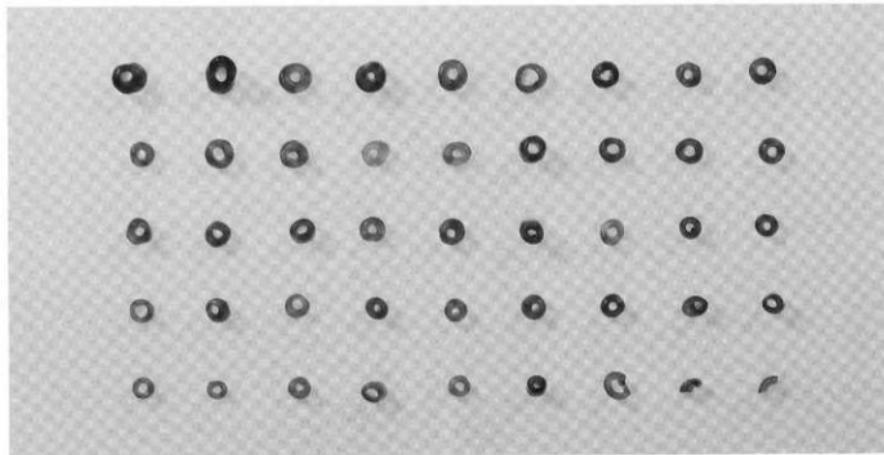
8 冠水状況



1号墓土器棺

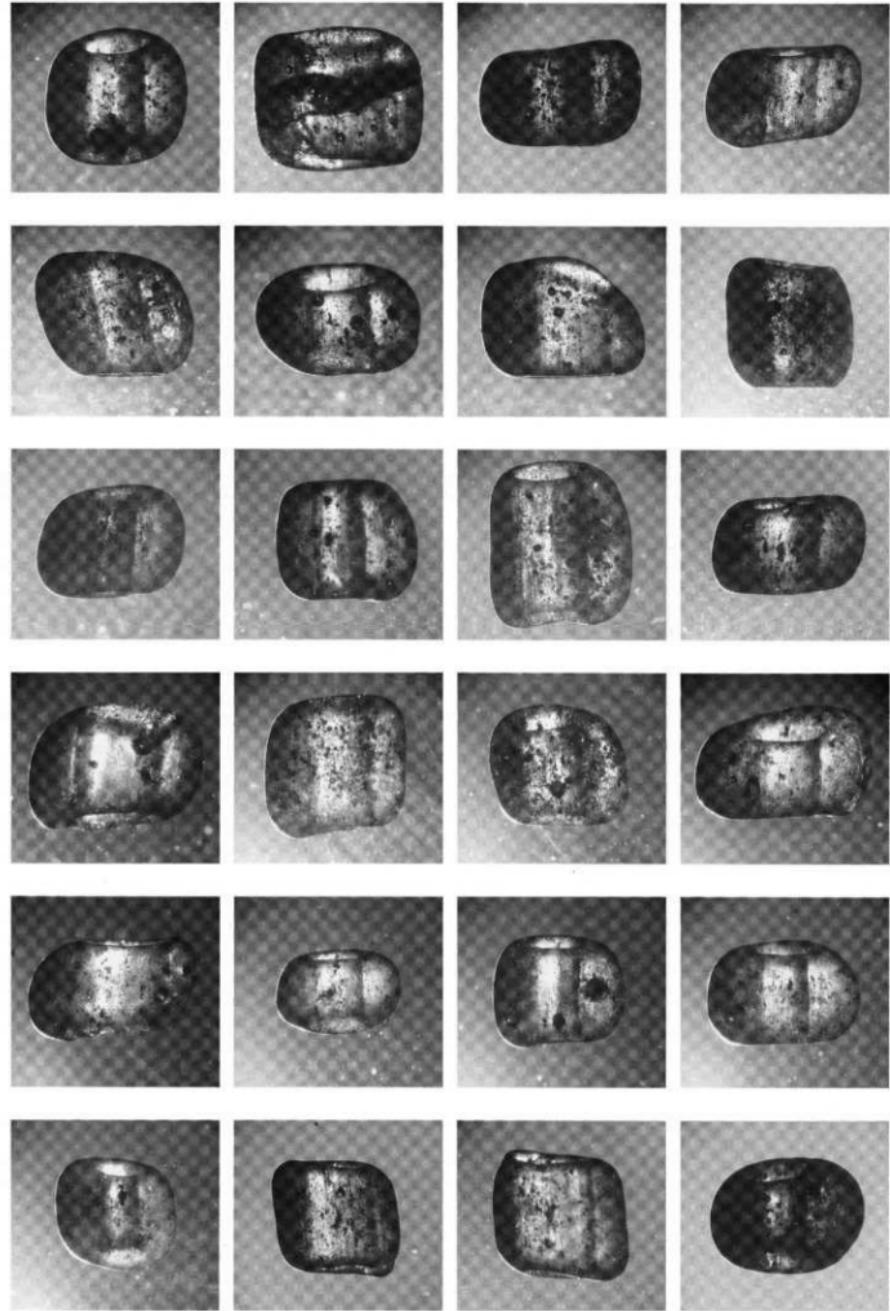


ガラス小玉(1)

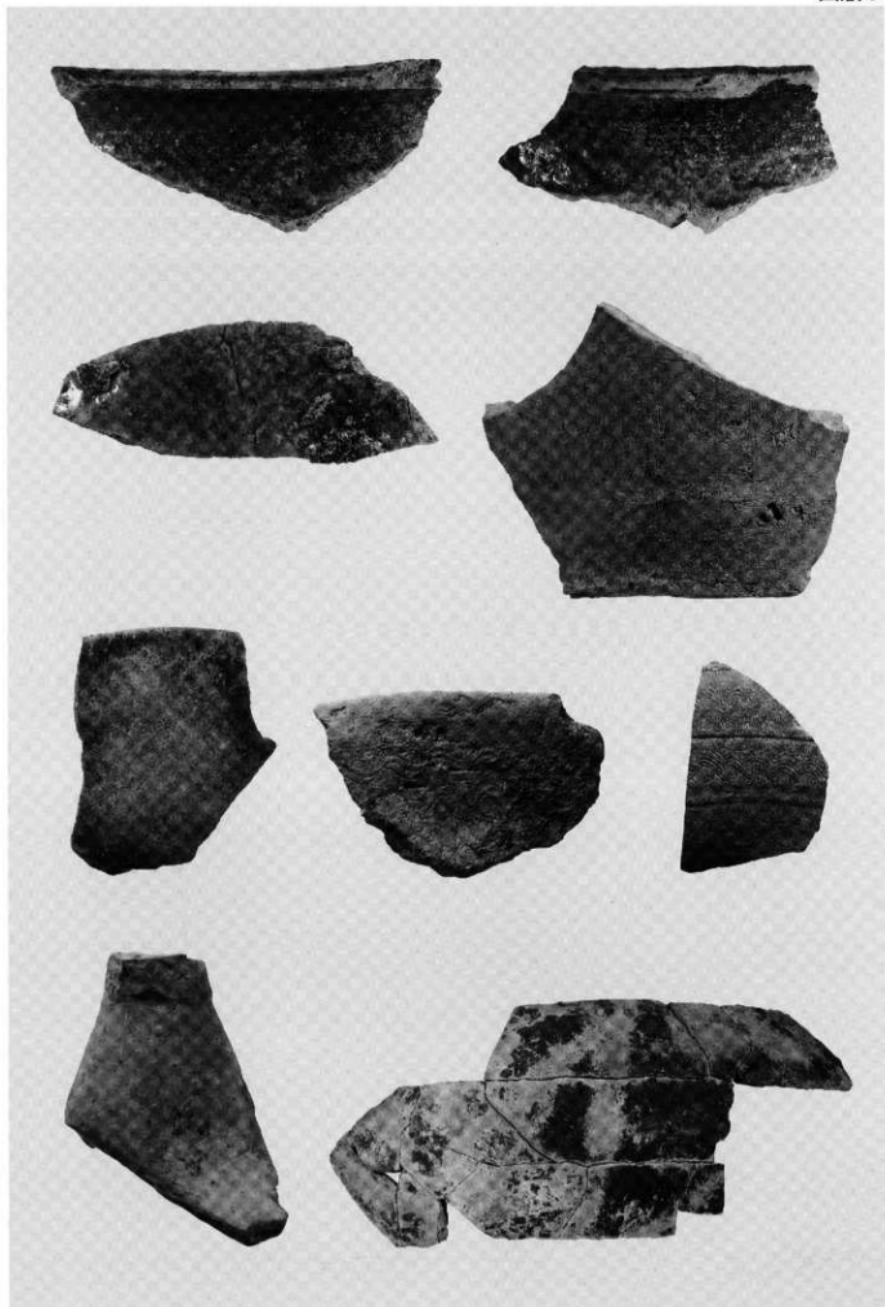


ガラス小玉(2)

図版 8



ガラス小玉実体顕微鏡写真(透過光)



出土遺物

## 下横屋遺跡報告書抄録

ふりがな	しもよこやいせきだい5ちてん										
書名	下横屋遺跡第5地点										
副書名	藤井町北下条字下横屋1509番地外地点 宅地分譲地内道路敷設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書										
著者名	宮澤公雄										
発行者	韮崎市教育委員会・財団法人山梨文化財研究所										
編集機関	韮崎市教育委員会・財団法人山梨文化財研究所										
住所・電話	〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566 TEL 055-263-6441										
統括機関	韮崎市教育委員会										
印刷日	2005年12月10日										
発行日	2005年12月15日										
所在地	山梨県韮崎市藤井町										
地図名	25,000分の1地形図 韮崎										
位置	北緯35度43分26秒、東経138度46分55秒										
標高	372m										
市町村コード	19207										
調査原因	宅地分譲地内における道路敷設										
調査期間	2004年8月30日～2004年10月30日										
調査面積	722m <sup>2</sup>										
遺跡概要	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">主な時代</td> <td style="padding: 2px;">弥生時代後期・平安時代・中世</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">主な遺構</td> <td style="padding: 2px;">弥生時代後期の土器棺墓1基、溝11条、土坑15基、ピット46基</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">主な遺物</td> <td style="padding: 2px;">弥生時代後期の土器、平安時代の土器、中世の陶器</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">特殊遺構</td> <td style="padding: 2px;">弥生時代後期の土器棺墓</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">特殊遺物</td> <td style="padding: 2px;">弥生時代後期のガラス小玉</td> </tr> </table>	主な時代	弥生時代後期・平安時代・中世	主な遺構	弥生時代後期の土器棺墓1基、溝11条、土坑15基、ピット46基	主な遺物	弥生時代後期の土器、平安時代の土器、中世の陶器	特殊遺構	弥生時代後期の土器棺墓	特殊遺物	弥生時代後期のガラス小玉
主な時代	弥生時代後期・平安時代・中世										
主な遺構	弥生時代後期の土器棺墓1基、溝11条、土坑15基、ピット46基										
主な遺物	弥生時代後期の土器、平安時代の土器、中世の陶器										
特殊遺構	弥生時代後期の土器棺墓										
特殊遺物	弥生時代後期のガラス小玉										

### 下横屋遺跡第5地点

藤井町北下条字下横屋1509番地外地点

宅地分譲地内道路敷設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成17年12月15日 発行

編集・発行 韮崎市教育委員会

〒407-8501 山梨県韮崎市水神1-3-1 TEL 0551-22-1111

財団法人山梨文化財研究所

〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566 TEL 055-263-6441

